

所  
内  
報

いしがき  
で綴る、この  
**10**  
年

60周年記念誌別冊

I s h i g a k i

所  
内  
報

いしがきで綴る、この  
**10年**

60周年記念誌別冊

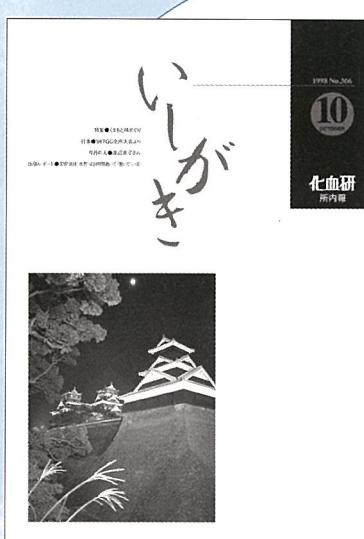
I s h i g a k i

# いしがき

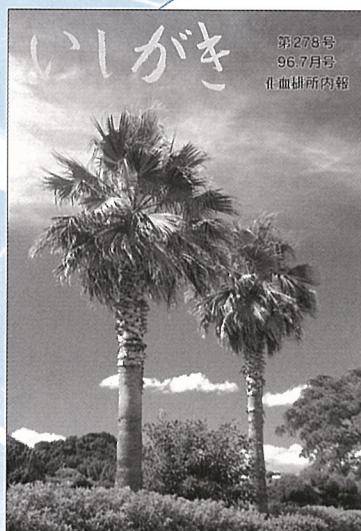
## この10年のいしがきの変遷

Ishigaki History & Contents

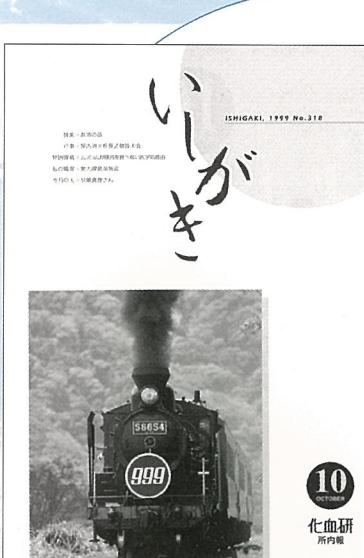
1年ごとに変わってきた「いしがき」表紙デザインとともに、目次をご覧下さい。  
それぞれの時代に使われてきた表紙は懐かしさを感じさせます。



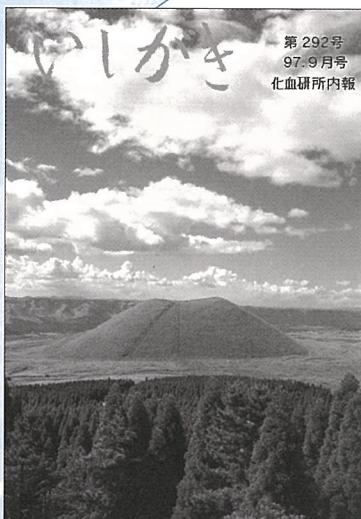
1998  
平成10年  
P20▶



1996  
平成8年  
P4▶



1999  
平成11年  
P28▶



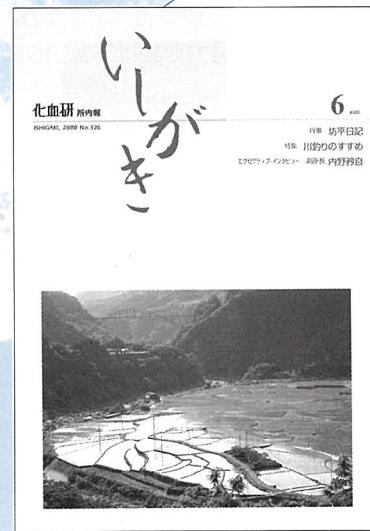
1997  
平成9年  
P12▶



**2003**

平成15年

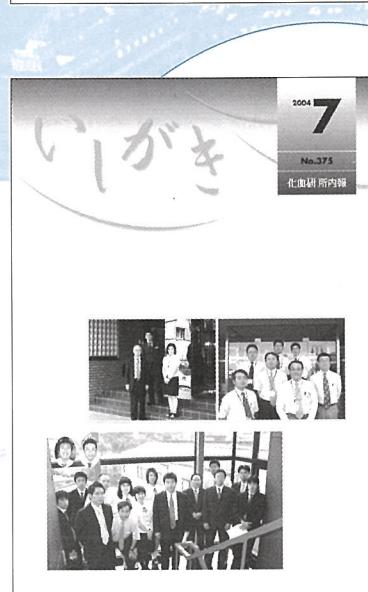
**P60▶**



**2000**

平成12年

**P36▶**



**2004**

平成16年

**P68▶**



**2001**

平成13年

**P44▶**



**2005**

平成17年

**P76▶**



**2002**

平成14年

**P52▶**

創立60周年に向かって新しい10年の始まりの年です。財団の使命である「世の中の役に立つ安全性・有効性の高い医薬品の開発・供給」を目指し、不断の努力を続けてまいります。

**1996**

No.273(2月号)より



# 創立50周年 記念式典・祝賀式

創立五十周年祝賀式挨拶

理事長・所長 野中 實男

本日は財団法人化学及衛清療法研究所の創立記念祝賀会を催すことになりましたところ、年末の大変お忙しい時期にも係わりませず多数の方が御列席頂きまして誠に有り難うございました。

特に多くの先輩の方々にお出で頂きましたことに心から感謝を申し上げます。

並はれる人も居ました。内館先生の  
素晴らしい講演はすごい好評であり  
素晴らしさを理解する人が多くな  
ったのです。心からお悔み申し上げる  
と共に御冥福を祈り上げます。  
一方、子供さんは生まれました方  
が二つ子です。この二つ子もまた元気  
で、元氣な子供たちです。

られます。心からお悔み申し上げる  
と共に御冥福を祈り上げます。

-

すでに御承知のように本日は創立五十周年の祝賀会でございます。現職員が先輩方が苦労して築かれた過去の歴史を理解すると同時に先輩方が在籍当時に思いを馳せ、そして更に今日の化血研を御理解頂きたいと存じます。

第二回は茶泡研究所に花水木の並木を作りました。私は花水木を「木に水をやって花を咲かせる」と考えております。化血研を支える素晴らしい技術を一生懸命育て上げ、やがて大きな成果を生ませるという意味であります。また、花水木の花は花弁が大き  
女子十六名、長男四名、長女六名、次男七名、次女八名、三男一名、三女二名であります。お祝いを申し上げますと共に健やかなる御成長を祈り上げます。

本来ならばいろいろな方をお招き  
申し上げて化血研の五十周年を祝う  
ところでありますが、平成七年が置

く外に反り返って、赤裸々な自分をさらけ出しています。化血研も堂々と正道を闊歩したいのです。

八名、女子一四名、計二十二名おられます。そのうち、所内同志の御結婚が五組、十名で、残り、十二名の

かれました社会的、経済的な環境を考慮して、祝賀行事の基本を「将来に続くもの」に置きました。一つは地域社会の多岐に涉るこれまでの御援助に対するお礼として、内館

第三はお世話になりました方々に記念品を差し上げました。そして現職の方々にもささやかな記念品を差し上げました。  
そして第四が本日の内輪の祝賀会ト、動物製剤百二十五ロット、分画  
本当に日出度うござります。よい御家庭をお築き下さい。  
今年の出検数は人体製剤四十四ロット

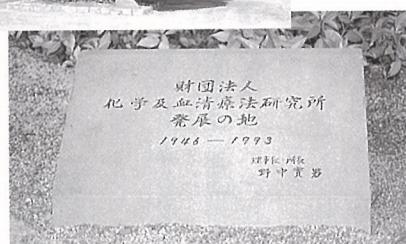
製剤百六十口ット、計三百一十九口ットであります。

ントセミナー、十九回阿蘇シンポジウム、二十二回家畜衛生講習会も無事に終了しました。そして大きな心の痛みでありますH.I.V訴訟も、漸

て下さい。五十年の歩みを回顧し  
酌み交わし、本日はゆっくりと盃を  
あります。以上のようなことであ  
りますので、

# いしがき

第274号  
96.3月号  
化血研所内報



## 創立記念式典



その概略を申上げます。  
本年は二十年勤続の方が五名、二十年勤続の方が九名、安全運転で十年無事故無違反が十六名、十五年無事故無違反が十六名、改善提案で優秀個人賞一名、最多個人賞五名、優秀課賞(課、功績表彰三件十五人)であります。何れも大変なる努力の成果であります。

一方、かねて一瞬の懈怠が大事を引き起すということを申して来ましたが今年はそのことを強く肝に銘じさせる年でもありました。

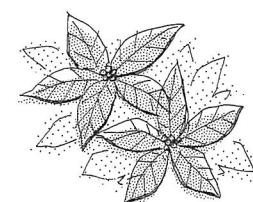
他方、日経バイオテクの「バイオ企業番付95年初場所」では西の大関に格付けられました。

業績発表会、TQC発表会の所内行事の盛会裡に行われ、二十一回二十一回熊大医学部・化血研ジョイ

「忙」といふ字は心を「いへすゆ」といふだと謂われますが、忘年会の忘の字は「心から何かが亡くなつてごく」と書つことであるうと私は思つて居ります。本日はゆくらむ御歎談頂いて、嫌なものが心から立ち去つていき、楽しい忘年会にして下さるよう願い上げまして挨拶

思つて居ります。有り難うございました。

「忙」といふ字は心を「いへすゆ」といふだと謂われますが、忘年会の忘の字は「心から何かが亡くなつてごく」と書つことであるうと私は思つて居ります。本日はゆくらむ御歎談頂いて、嫌なものが心から立ち去つていき、楽しい忘年会にして下さるよう願い上げまして挨拶





# 平成8年度 入所式式辞

財団法人化学及血清療法研究所の  
平成八年度入所式にあたり、ご挨拶  
申し上げます。

本年は桜の開き加減が早く、今日の入所式には満開を過ぎているのでないかとの心配していましたけれども、皆様の社会人としての一目目を祝うために、この数日間气温が下がってくれました。厚生会館ふれあい前の桜も本当に満開となりまして、職員七〇〇名、パートタイマー三〇〇名の計約一〇〇〇名と共に、皆様の入所を中心から歓迎しております。皆様方を立派に教育し、化血研に入所させて頂きましたご両親をはじめ、ご家族の皆様に厚くお礼申し上げる次第です。

化血研は昨年（平成七年）で創立以来五〇年を迎える事ができました。先輩及び現職員のたゆまぬ努力があつたればこそ、世の荒波を乗り切ることができたのです。この事が、五〇

周年を記念して作成されました「ブロフィール」の中の一ページにまとめてられていますので、引用させて頂きます。

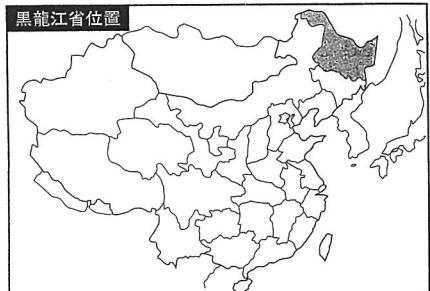
化血研本所、菊池研究所、阿蘇支所を中心を集め七〇〇余人の絶え間ない研究開発への意志と情熱。その原点は、孵卵器一台、コッホ蒸気釜譲り受けた実験用作業台というものでした。しかし一九四五年の創立当初から研究即製造、製造即研究という苛酷な条件の中で“研究開発”的理念と実績が形成されていったのです。微生物学、免疫学の研究領域では痘瘡ワクチン、発疹チフスワクチンや各種の抗血清類の供給で戦後の開発を続けてきました。動物用ワクチン分野においても鶏・豚・牛の各種ワクチンを手がけ畜産業界の発展の一翼を担い、犬・猫の分野

た遺伝子組換えや細胞融合等の生命工学技術から遺伝子組換えB型肝炎ワクチンを生み出しました。

血液学の研究領域では、血液銀行に続いて血漿分画製剤の研究が続けられました。世界に先駆けたスルホ化人免疫グロブリン、高度精製技術を駆使した加熱凝固因子製剤、外科の世界に変革をもたらすフィブリリン糊製剤、これらの製剤の開発は習得した先端技術によるとともに化血研の原点から続いている研究開発の理念が実践された成果です。

これが紹介文です。我々は昨年までを第一章ととらえ、本年は二十一世紀へ向けての基礎固めの初年度、すなわち第二章のスタートの年と位置づけています。しかし、近年の我々とりまく環境は非常に厳しいもの

理事長・所長  
酒匂 光郎



# 化血研 海外へ展開

ている。

投資額は化血研から1160万ドル、先方から土地使用権及び機械設備等の現物出資三六〇万ドル計七二〇万ドルで、合同期間は二〇年間である。生産品目及び各生産量は別表1の通りである。

やるい月一一日、株式会社化血研と中国・黒龍江省生物制品一廠との間で「日中合資・黒龍江化血研生物技術有限会社」設立の調印が、厚生会館特別会議室で、酒匂所長・進副所長・山田常務理事はじめ関係者立ち会いのもと、株化血研の加久社長と黒龍江省生物制品一廠の劉樹華廠長の間で行われた。

## 【合弁相手】

合弁相手の黒龍江省生物制品一廠は黒龍江省哈爾濱市にある国営企業で、従業員の規模は約八百名。そのうち動物用ワクチンの鶏用ワクチンについては一九九五年に販売量二八億ドースに達し、中国第二位である。

本合弁事業の内容は、合弁会社を設立して、増加し続ける中国の畜産市場で、動物用生物学的製剤、特に家禽ワクチンの開発・製造及び販売に当たるもので、合弁相手の黒龍江省生物制品一廠の敷地内に、GMP適合の工場を新設し、当面は従業員数約九〇名での生産を計画し

研の技術協力と資金を求めてきた。

## 【合弁事業の経緯】

今後、中国においても、一九九五年以降新設される工場はGMP適合したものに限られ、又一〇〇五年からはGMP適合の工場で製造された製品しか販売できないようになっていく。

そのため、黒龍江省生物制品一廠においては、前述の品質面と資金面で対応が困難なため合弁相手を模索

中に、元動物医薬品検査所所長の二宮幾久治先生の紹介で化血研に合弁の話が持ち込まれた。

ただ近年、外国からの輸入ワクチント外資系の合弁会社製のワクチンとが市場を侵食しつつあり、このままの品質の製品では更にシェアを落としていくという危機感の下で、化血研としていくという危機感の下で、化血

が対応することになった。

その後、一九九五年十月に株化血研から土井生産管理部長（当時）・水野經理課長（当時）、株化血研から四名が中国を訪問し、企業化の検討を行い、合弁会社を設立することで合意に達し、本年一月には株化血研から水野經理課長、株化血研から加久社長・宮崎の三名が訪問し、契約書・定款などの詳細な詰めを行った。



No.280(9月号)より

化血研

## 海外へ展開(続報)

前回、六月号で合弁会社「黒龍江化血研生物技術有限会社」設立の報告をしましたが、その後の工事などの進捗状況について報告します。

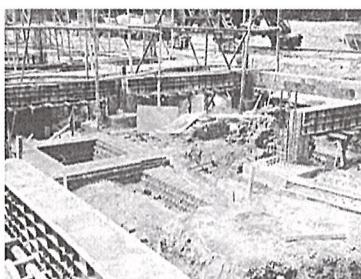
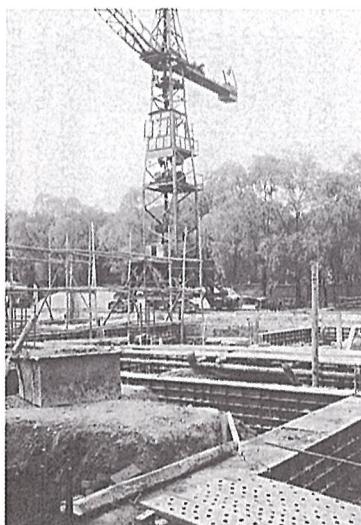
三月二十六日に、現地政府より営業許可証を得た後、四月に「鈴化血研」よりの出資分三百六十万ドルの内半額分を、五月に残り全額の振込を行った。鈴化血研よりの出資は完了しました。丁度円安傾向になっていたときなので、日本円で約三億八千八百万円の出資となりました。

その間、四月十三日から二十四日迄の十二日間に亘って、第一製造部の古川課長、資材課の相沢課長、鈴化血研の土井調査役が、新工場に設置する設備機器及び工場のレイアウトの検討のため、北はハルビンから南は南京まで延べ五千キロにわたり

中国国内各地を訪問された。  
五月十二日・十三日の両日には、日本における役員会に於ける董事会の第一回会議がハルビン市において開催され、鈴化血研より山田理事長、諸方部長の四名の董事及び通訳の孟昭さんの五名が訪中された。

第一回目の董事会を経て、劉樹華総經理(黒龍江省生物制品一廠廠長兼務)以下の幹部社員の人事も大略決定し、合弁会社は操業に向け、本格的に稼働を始めました。

-1-



## 私の包装作業回想記



所友  
内田満洲男氏

昨年二月「歴史的記念品委員会」な

るもののが結成され、そのメンバーの

一人に選任された。

この会の目的は当所創立五〇周年

にはほとんど触れられていない。

そこでこの機会に「分注」「包装」

についてなにか記録を残しておこう

ということとなった。

そのなかの「包装作業」に関して

ただ創立当初からこれらの工程の

ほとんどは手作業であり、道具と言

えば通称「糊板」(木製三十×四五

×二四)とよばれたものぐらいであつ

たろう。

この使い方は先ず「糊板」上にメ

リケン粉で作った自家製糊を刷毛で

はいえ経験したという理由でこの大

変を引き受けさせられた次第である。

実はこの「糊板」による貼付法は

当所創立期にどういう経緯で導入さ

れたのであるうか?

この講会を開催して当所期間を

事業の一環として、当所創立時より

今まで活用された機械、器具等を

収集し、それらの用途、年代等を記

録することにあった。

事業の

たまたま二十年前、小学生が短期間と

はいえ経験したという理由でこの大

変を引き受けさせられた次第である。

ベル、検定証の一枚、一枚を瓶や箱に手早く貼付する。

書けば面倒の様であるが実際は非

常に早い。

ただし、この「糊板」による貼付法は

当所創立期にどういう経緯で導入さ

れたのであるうか?

この講会を開催して当所期間を

実はこの「糊板」による貼付法は

当所創立期にどういう経緯で導入さ

れたのであるうか?

この講会を開催して当所期間を

り、これには昨年から数回にわたり、「こしがき」誌上に掲載されおり懐かしく、興味深く読まれた方が多いと思う。

その後会話を重ねるうちに、過去にあまり記録として記述されていない「作業はなにか」が話題となり分

なるほど四十年史、五十年史（原稿段階）をみても当所創立以来の「作業」であるにも関わらず具体的

に印象に残っている事例を若干紹介したい。

また、なかには私的メモから引用したものもあるので、事実とは少し異なる部分があるかも知れない。その点はお許し願いたい。

さて、前置きが長くなつたが包装作業の基本的な流れを次図に示す。

この流れは現在も殆ど変わっていないと思ふ。



旧京町研究所正面右のプレハブ棟は当初採血瓶の包装に転用された。

が眞偽の程は定かではないようだ。  
しかし当所の包装作業の原点はこの「糊板」にあることは間違いない。  
その後ロット番号、合格最終有效月日を印刷するため印刷機及びラベラーが購入、設置された様であるが、主体作業は包装本数の増加に比例し、この「糊板」の枚数を増やす、いわゆる人海戦術で対応されたようだ。

ところが昭和三〇年代後半になると、この「糊板」中心では到底間に合ひそうにない事態が持ち上がった。  
いわゆる動物用ではND不活性ワクチンの大増産、人体用では清水研究所の新設と主力製剤であるフルワクチン等の一〇ml製剤の出現であった。

ここに創立以来二〇年にして自動包装機が京町、清水に導入設置されたのである。

機種はいずれも日本自動機械製で、京町では一〇〇ml専用、清水では一〇ml専用であった。

これらの包装機は当時としては、國産の最新鋭のもので生産性向上に大いに貢献したことは言うまでもない。

しかしこの包装機械はカートン、ラベルの規格、紙質に大きく影響さ

て「こしがき」誌上に掲載されたり懐かしく、興味深く読まれた方が多いと思う。

その後会話を重ねるうちに、過去にあまり記録として記述されていない「作業はなにか」が話題となり分

なるほど四十年史、五十年史（原稿段階）をみても当所創立以来の「作業」であるにも関わらず具体的

に印象に残っている事例を若干紹介したい。

また、なかには私的メモから引用したものもあるので、事実とは少し異なる部分があるかも知れない。その点はお許し願いたい。

さて、前置きが長くなつたが包装作業の基本的な流れを次図に示す。

この流れは現在も殆ど変わっていないと思ふ。



れ、それらによる好、不調の波が激しく頭痛の種であった。

とくに京町に設置された包装機の全盛期は導入後四、五年と非常に短く、その後急速に稼働率が低下していった。

理由は主力のND不活性ワクチン(一〇〇ml)の大容量(五〇〇ml)化生ワクチンへの移行であり、これに伴い作業も元の人海戦術で対応せざるを得なくなつた。

こうした折、当所において資格制度導入に伴う組織改編が行われ、それまでの企画課包装班は器具、分注部門に統合され、新たに生産管理部製品課として発足することとなつた。小生が製品課に異動し包装の責任者になつたのは、丁度この時期である。

異動後まず驚いたのはその人の多さであった。その数四〇数人、男性は三名のみで、あとは女性ばかり、しかもその陣容は創立以来の大ベテランから新人までの年齢構成で誠に多彩であり朝礼時など圧倒されたものである。

当時の包装作業の本拠地は旧京町研究所の一角(現住三の丸史料公園の中央入口付近)のプレハブ3棟、

○大先生曰く「そりや一障子張りの要領からきたつたい」だそうである。

。

## 化血研水源涵養の森を造成



当所は、熊本市の水資源の問題がクローズアップされる中で、水の大口需要者として社会貢献できる事業を検討した結果、未来に向けた「豊かな郷土づくりと水資源の確保」を目的に、国有林の分収造林制度を活用して「法人の森林」を設定し、水源林を造成することになりました。七月二十五日、熊本営林局・青柳局長と当所の酒匂理事長との間で契約の調印が行われました。

水源林を造成することになりました。七月二十五日、熊本営林

局・青柳局長と当所の酒匂理事長との間で契約の調印が行わ

れました。

水源林を造成することになりました。七月二十五日、熊本営林

局・青柳局長と当所の酒匂理事長との間で契約の調印が行わ

れました。

### 1、事業の概要

熊本市の地下水減少が深刻な問題となっています。来春、熊本市は、大口取水者として当所を含む大手企業名を公表する予定です。そのような趨勢の中、当所としては、まず内部の節水に努力してきました。(動力課を中心に関開した「節水キャンペーン」では約一五パーセントの節水を達成)。同時に、外への働きかけをも模索してきました。

そして、自治体レベル、市民レベルで高まりを見せつつあった、国有林を活用した森林造りに注目しました。担当行政庁である熊本営林局に相談したところ、「分収造林制度」一つである「法人の森林(もり)」(国有林の土地に企業が木を植えて育て、一定の期間育成した後に伐採し収益を分収する制度)。その収益は、森林づくりの助成など社会還元に利用することが条件。平成四年度に開始)を薦められ、検討の末、この事業に取り組む事となりました。

造林設定の場所は次頁の地図通りですが、ここは当所が取水している河川の源というべき所です。水資源の確保、資源環境の保護という趣旨には適した場所と言えるでしょう。

う。

### 2、設定申請の場所

熊本県上益城郡矢部町太字目丸字奥官山三一〇三番地の一目丸内大臣(内大臣橋から車で三〇分、徒歩二時間程度、林道を登つていった場所になります。)

### 3、認定申請面積

二五、六三八平方メートル

### 4、植栽樹種及び本数

すべて広葉樹(ケヤキ、ヤマザクラ、カエデ、コブシ、カツラなど約七七〇〇本)

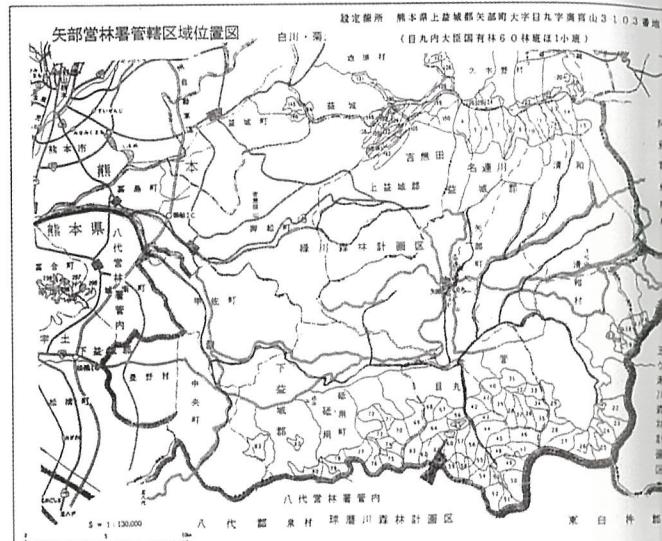
### 5、契約期間

平成八年度～平成八七年度  
植栽期 平成九年三月  
(植樹祭を予定)

### 7、備考

森林入り口には、企業名・事業名を表示した看板を掲げます。  
東屋、散策道なども設置可能です。  
日常の管理業務は、地元の育林業者である矢部愛林有限会社に委託。

## 法人の森設定箇所位置図



No.283(12月号)より

# '96 大運動会

平成8年10月26日(土) 菊池研究所グラウンドで  
行われました。



## 緑 団 黄 团 白 团 赤 团

第2製造部	研究開発部	第1製造部	第3製造部
研究管理部	營業部	儀化血研	品質向上
生産管理部	品質管理部	企画部	薬事部
経理部	総務部	試薬臨床部	病理部

-1-

- 2 -

化血研が中国との合弁会社を設立し、新工場が完成しました。また、本所ではTM棟が完成するなど更なる飛躍の年となりました。

# 1997

No.287(4号)より

## 今月の出来事



早春の深山に“コブシ”五百本植え付け

## 「化血研の森」 も り 植樹祭

三月十五日午前十一時、「化血研の森」植樹祭が、矢部町の目丸内大臣国有林で執り行われた。前夜からの雨がわずかに残る天気で、式の開催が懸念されたが、式典の進行につれ、雲間から陽が差し始める。

式は、酒匂所長による主催者挨拶（下欄）に続き、来賓を代表して矢部當林署・久保田署長にご挨拶を頂く。

森林資源の保護、「水源涵養」といふ当所の造林への姿勢に対し、ありがたい評価を頂いた。

式典の後、記念植樹に。当所の理事、動力課・総務課（環境保全に関連のあるスタッフ部門）の職員が、熊本當林局、矢部當林署の方々と共に、コブシの苗木五百本を植え付けた。土を掘り起こした時の匂いは、どこか懐かしく感じられる。童心に帰ったような、参加者の笑い声がしばしば山間に響いていた。

三十分程度の植樹作業の後、ヤマメや豚汁を味わった。

## 植樹祭挨拶

酒匂光郎

平成八年七月二十五日、熊本當林

局に於いて水源かん養の目的で分収

造林型「化血研の森」調印以来待ち

ちこがれていました植樹を本日行なうことが出来る様になり心より嬉しく思います。

心配しております天候も天の助けをいただき疊りとなり、絶好の植樹日和となりました。調印以来今まで、熊本當林局、矢部當林署、矢部森林組合、矢部愛林有限会社の皆様方には、いろいろとお世話になりました。

その上、本日は、當林局、當林署、愛林会社の方々には植樹の御指導等よろしくお願ひ申しあげます。又、聞くところによりますと昼食につきましては、JA矢部の方々に御用意

したコブシの他に、ヤマザクラ、カエデなど、季節毎の観賞を楽しめるものを始め、ケヤキ、ブナ、カツラ、ミズナラ、キハダなど広葉樹ばかり九種類。當林局の森林インストラクターが、苗木の現物を手にしつつ各樹種の説明をされた。参加者は将来、樹木が育った時の情景に思いを馳せた。





# 平成9年度 入所式式辞

## 新入職員を迎えて



理事長・所長  
酒匂 光郎



平成9年度、新入職員五十六名の皆さんを迎えるにあたり、全職員を代表して心より歓迎いたします。

まず始めに、皆さんを今日まで勉学にいそしませ、化血研の入所に賛成いただいたご両親、ご家族に対し、心から御礼申し上げます。化血研は、一九四五年の創立以来、幾多の苦難を乗り越えて、五十二年目を迎えております。

内外ともに、政治、経済すべてにおいて厳しさを増す今日、我々を取り巻く分野でも、技術力の競争は一日を争う激しいものがあります。

つい先日までは、最新の技術と思わ

れていたものが、すぐ一般的な技術となってしまします。この様な中で我々

は研究、製造、営業と自助努力によっ

て、家族のため、研究所のため、社会

のために生きていかなければなりません。

医薬品業界に於けるいろいろな基準

は次々と厳しくなり、その品質の向上

を目指して、世界中の人々が頑張って

おります。皆さんも基礎をしっかりと固めた上で、さまざまな分野の人達との出会いを大切にして、常に問題意識を持ちながら、何をなすべきかを考え、目的完遂のよろこびを味わうべく、最善をつくしていただきたいと思います。

三月十五日、「化血研の森林」の植樹を行いました。これは、熊本宮林局

と八十年契約をした、分譲造林型の森

林であり、約二・五ヘクタールに七六〇〇本植樹しております。この目的は

二つあります。一つは、地下水保全の

ための水源涵養としての森であり、あ

と一つは、八十年先もこの契約を実行

出来る様、存続させなければならない

という意志表示であります。

共に、目的達成のため頑張りましょう。

甚だ簡単ではございませんが、皆さん

に大きな期待を持って挨拶をいたしま

す。



- 1 -

## 特許の世界へようこそ

### 研究管理部 特許課

ル社の特許を侵害しているとして、特

許係争の後、160億円の損害賠償金

を支払い和解しました。和解とはい

え、

実質完全敗北です。しかも、米国への

製品の輸出が禁止され企業活動で大

な打撃を被りました。また、ゲーム機

で有名なセガ・エンタープライズ社

(一九九七年、総合玩具メーカー・バ

ンダイとの合併が発表されました)が

米国の個人発明家コイル氏に特許侵

害

で訴えられました。セガはこれに全面

降伏し、60億円もの損害賠償金を支払

たのです。巷では真実しやかに

このような数字が飛び交っていますが、

実は、和解条件の真実は当事者のみ知

ります。内容は、「特許」を中心と

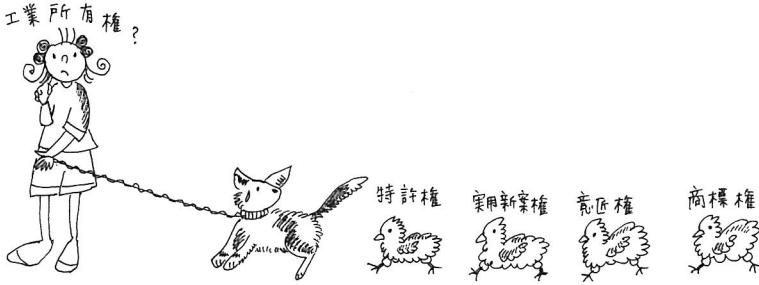
した「工業所有権」全般にわたり、①

の

こと

です。

この



一般的には、特許権実用新案権、意匠権などといいます。これらは権利に「工業所有権」といいます。ノウハウや著作権などを含めて「知的所有権」とか「無体財産権」などと呼ばれることもあります。

※特許権

「工業所有権」の代名詞ともいえる代表的な権利のひとつです。産業上の利用性のある高度な技術的アイデア（発明）を保護対象とします。

一般的に使われる事によると、この「発明」は意味しますから、例えば、新しい走り高跳びの跳躍法や部下のやる気を引き出す新たな管理方法など種々な権利を保護する事になります。

マスコミをにぎわせるほどの大火傷をもたらす事件で、小競り合いの特許係争を経験してはいるまでも、いざ実戦では到底勝てない事実です。今や、段階のバイオニア的製品は別にして、上市する製品のうち工業所有権の問題を付隨しないものは皆無であると言つても過言ではないでしょう。

「特許など気にすることもなく商売ができた自豪感があった」と「古き良き時代」を懐しむことも世間話としてはよいかもしませんが、事實として特許問題が大きくなるしかかっていることを認識する必要があるかと思います。

二、さて、「工業所有権」とはいったいどのようなものかというのでしょうか。

新たに建設された皆さんに用意された  
工業所有権の分野では、根底となる法  
の改正（特許法・実用新案法・商標法）  
が相次ぎ、「技術講座」の内容が実際に  
そぐわない部分が生じてきてしまいま  
した。法改正に対して、「特許許  
せセミナー」などの機会を利用して解  
説を試みてきましたが、特許課内外で  
総合的にまとまった内容に整理する必  
要があるのでは、との機運が高まりま  
した。

そこで、これから数回にわたり「い  
しがき」の紙面をお借りして「工業所  
有権」についてのお話を展開しようと  
トフォーカス技術に関する米国ハネウ

序章 工業所有権ってなに？

一、いま、なぜ「工業所有権」が叫ば  
れるのでしょうか？

かつて、ミノルタ・カメラが、オー

法改正の留意点を読み込み、できるだけ  
わかりやすいものにしてみたいと思つた  
います。執筆は特許課スタッフが分担  
します。皆さんの注意喚起し少しでも  
役立つものにできるなら、このうえ  
ない幸せです。

序章 工業所有権ってなに?

「いま、なぜ「工業所有権」が叫ばれるのでしょうか?

勝っても負けても莫大な手  
生であります。転じる、わが国の医薬品の世界に目を  
号製品として厚生省の認可も受け  
血栓溶解薬を開発したP.A.が、米国  
ジェネリック社の特許を侵害して訴えられ  
ると大阪地裁で判断されました。控訴審もこれを認め、これを受けて199  
3年事件は確定しました。東洋紡はこの  
額の賠償金を支払いました。この製品の製造のため新築した最  
新設備の大津工場は、本格的に稼働す  
ることなく差し押さえられてしまいま  
た。その結果、東洋紡は医薬事業へ

これができます。一方、この権利を行使する側の者は、医療の積極的意義による有無に拘らず、例外なく致命的なダメージを被るのが常です。

今や、医薬品メーカーとして企業活動の展開をするに当たり、特許権などの権利を問題に避けて通ることは極めて難しい状況となりました。昨今の厚生行政において、医薬品の製造承認申請を厚生省に提出する場合、「物資特許」の問題解決が前提となつてはいるなども、状況を反映する一例ではないでしょうか。当所においても、所を代表する「ような製品」例えば「ビームゲン」「ボルヒール」等に關り、幸い

多なものをお指して「うなづかせます」ところが、通常の意味より權はなくにせまることで明るく、「自然力を利用した技術思想の創作」（特許法第2条）に限られます。小学校の教科書に例えれば、「理科」「技術・家庭」の分野がその対象となるべきでよいでしょう。具体的には、上に記載される限りではありますから、農業・水産業等もこれに含まれます。有益な、新たな「物」の創作、「物」を製造するための「方法」、および産業上有益な、例えばある物質の測定に用いられる「方法」などが特許権として保護されます。当所では、「物」を「医薬品」に置き換えれば実際的かと思います。

技術的なアイデアを保護対象とする特許の水準に達しない比較的低いレベルのアイデア（考案）を保護します。但し、物品の構造等に関するもののみであり、物質自体や方法に関するアイデア（発明）は実用新案権の保護の対象外です。実用新案権はいかにもいわゆる大発明をすることができない中小企業や個人発明家を保護するため、主として日用品や雑貨などに開拓する比較的簡単なアイデアに対して与えられてきたものです。しかし、從来の我が国のお公用新案制度は特許制度との違いが必ずしも明確ではない等的理由により見直しが図られ、無審査期間の短縮化等を骨子とする平成5年の法改正（平成6年1月1日施行）

※実用新案権 信用回復措置請求権などを行使することができます。我が国は私たちのシリーズでは、当社にとって最も重要な且つ染込みの深い特許（特許権）を柱にして説明を進めていこうと思いますが、特許以外の権利の保護については大略次のとおりです。

ます。意匠権を取得するのは、  
値段が同じ程度であった場合でも優れた  
デザイン（意匠）が施された商品の  
方が、需要者の審美感や趣味感に訴  
ることにより、多く消費されるであ  
りうる考え方ではあります。  
所のようないくつかの業界では、  
のですが生活用品や玩具等の業界では  
意匠の重要性は大きいものです。



# 化血研 海外へ展開

黒龍江省生物制品研究所と中国  
一廠との間で'96年3月22日、合弁設立  
しました。「日中合資・黒龍江化血研」が  
生物技術有限公司についての概況は、  
いしがき、「96年6月号」、「化血研」海  
外へ展開」で合弁事業の経緯と概要、  
また会社があります「哈爾濱市をご紹介」  
いたしました。「96年9月号では、その  
統報として、新工場の建設模様をお知  
らせしました。

唯独り準備に余念が無かったのは、  
明月、中国語で挨拶される、加久社長  
ではなかったでしょか？！

式典は新工場前の広場で催されます  
が前日の夜になつて雨が降り出しまし  
たので、皆で大変心配をいたしました。  
いよいよ当日となりましたが、朝ま  
だ雨が降っています。式典は9時58分始  
めの開始です。貴賓（中国政府、省関係



黒龍江省人民政府高官の人たち

- 2 -

間が少々半端に感じられると思ひます  
が、中国では8は発の発音に似て、お  
金儲け、事業繁栄の意味があるのでそ

No.293(10月号)より

TM標完成

去る八月二十七日、待望のT.M.工事は終了しました。竣工式では、構造学者の鹿島建蔵博士に贈呈式を行なわれ、七ヵ用に亘る本工事が終了いたしました。これと共に、直会では、酒垣所長が講演を行なったのである。鹿島建蔵博士に贈呈式を行なわれ、七ヵ用に亘る本工事が終了いたしました。



「T.M.棟」完成!!



卷之三

(图-①)

## 化血研・海外へ展開



新工場正面



竣工式での日本側代表挨拶（中国語）風景



竣工式に花を添えた中国服のコンパニオン



化血研出席者全員の記念写真

- 3 -

番目に日本側を代表し、(株)化血研、加久社長の挨拶が“流暢”な中国語でなされました。250名余の参列者には、大いに感激を覚えました。終わって張畜牧局長から“太好了。”の声と握手を求められたのがその評価であります。

コノペー・オンの介添えによる、チーカットがおこなわれ、爆竹が打ち鳴らされる中、工場の落成が宣言されました。招待者の工場見学が行われ、式典は11時30分に終了。バスを連ね、パーティ会場の和平邨賓館に移動しました。

円卓の中華パーティー、中国式“乾杯”の連続で、1時間半余、相当地に美酒に

長が第23回、家畜衛生講習会開催のために出席が適わず、内野、船津、内倉、杉本の各理事、(株)化血研から加久社長(合弁会社、副董事長)、(株)管理部長緒方(董事事)、孟中國業務担当が列席いたしました。中国での竣工式はどのように行われるのか……私たちは前夜から、それぞ

新工場正面竣工式飾つて

越して行きましたが、本日列席の貴賓に乗せたものでした。お役人の力が判ります。

会場に着いた頃には雨も止み、各々日頃の精進の良さを自負しました。式場には4本のアーチバルーンが打ち上げられ、黄、青、赤等の旗、風せんのアーチが華やかに飾られています。開始時

生物技術有限公司の幕を掛けた、中国賓と招待者の入場です。司会者による開式と進行がなされます。劉董事長(兼総經理)の挨拶と経過の説明、次いで貴賓者を代表して、黒龍江省人民政府、趙羽副秘書長の祝辞がありました。三

## 第23回

## 家畜衛生講習会並びに研究協議会プログラム

◆期日／平成9年8月5日(火)・6日(水)・7日(木)

◆場所／財団法人 化学及血清療法研究所 厚生会館3Fホール

熊本市大窪一丁目6番1号 ☎(096) 344-1211

## 第1日目 8月5日(火)

受講者受付	12:00~13:00
開講式	13:00~13:30
①「最近の家畜衛生事情」	13:30~14:30
農林水産省 畜産局 卫生課長 矢ヶ崎忠夫 先生	
——休憩——	14:30~14:40
②「動物用ワクチンをめぐる問題」	14:40~16:10
農林水産省 動物医薬品検査所 検査第一部 部長 福所秋雄 先生	
③「家畜の抗病性とDNA診断について」	16:10~17:40
農林水産省 家畜衛生試験場 生体防御研究部 部長 関川賢二 先生	

## 第2日目 8月6日(水)

④「愛玩鳥・野鳥と疾病」	9:00~10:30
岐阜大学 家畜微生物学講座 教授 平井克哉 先生	
⑤「豚流行性下痢(PED)について」	10:30~12:00
農林水産省 家畜衛生試験場 九州支場 臨床病理研究室 室長 末吉益雄 先生	
——昼食——	12:00~13:00
⑥「家畜の大腸菌症について」	13:00~14:00
財団法人 化学及血清療法研究所 第二製造部 次長 松尾和夫 先生	
⑦「口蹄疫の問題点」	14:00~15:30
農林水産省 家畜衛生試験場 海外病研究部 部長 難波功一 先生	
菊池研究所見学	15:30~17:30
懇親会(於 熊本ホテルキャッスル)	19:00~21:00

## 第3日目 8月7日(木)

⑧「ブリオン病とその診断」	9:00~10:30
帯広畜産大学 獣医公衆衛生学講座 教授 品川森一 先生	
——休憩——	10:30~10:40
⑨研究協議会 各講師	10:40~11:40
(座長) 農林水産省 家畜衛生試験場 九州支場長 小河 孝 先生	
閉講式	11:40~12:00

## 家畜衛生講習会

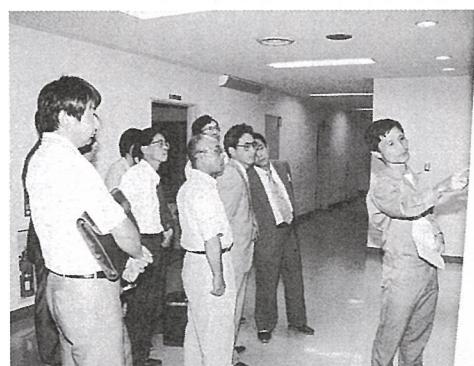
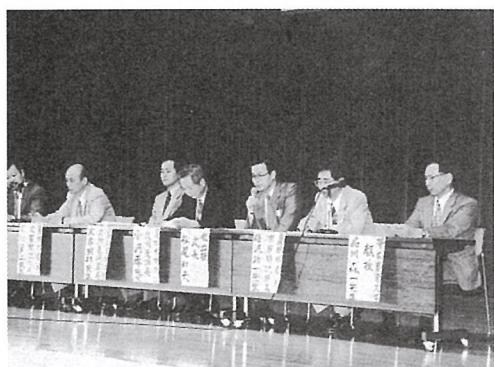
## 盛会裏に終了

第2製造部第2課  
本田 隆

第23回の家畜衛生講習会が8月5日から7日の3日間に亘って当所の厚生会館ふれあいで開催されました。本講習会は昭和28年にスタートした歴史の古い講習会で、概ね2年に1回全国の家畜保健衛生所の先生を中心に、家畜衛生分野で活躍される方々が参集され、最新の家畜衛生事情や疾病の発生状況、その予防技術など、その時々の話題の紹介が当代一流の講師によって行われています。今回は受講生176名、聴講生76名の計252名にも及ぶ過去最多の方の参加がありました。発表された演題の内容を簡単に紹介します。



## 家畜衛生講習会



### I 最近の家畜衛生事情

最近の家畜伝染病の発生はワクチンの開発・普及、防疫体制の整備もあり、総じて平静に推移しています。しかし、伝染性海綿状脳症（TSE）、豚の流行性下痢（PED）、マリンフルエンザ、口蹄疫など内外での発生例を踏まえて家畜伝染病予防法の改訂や防疫体制の整備が講じられています。また、ヒトでのO-157やサルモネラによる食中毒が社会問題になってしまい、国際基準に適合した高品質で安全な畜産物を供給する生産衛生管理体制を導入するという目的でHACCP方式の導入が検討されています。

### II 動物用ワクチンをめぐる問題

畜産物等の輸入自由化の拡大等の要因で畜産業の長期低迷が続き、動物用医薬品の市場は成長力を奪われ、長期的に横這い、微増の推移を続けています。一方、内外価格差の是正に対するユーザーの要請は強く、厳しい競争社会に突入しており、動物用ワクチン業界においてもこの傾向が顕著であります。また、欧米の動物薬企業の世界戦略からこれら企業の日本進出も目立っています。これは他の分野に比較して、畜産物市場に拡大傾向が見込まれることや国内での規制緩和によるものと考えられます。

### III 家畜の抗病性とDNA診断

我が国での畜産は多頭化、集約化が進んだ結果、飼養環境の変化により家畜の生理機能や免疫機能の変調による慢性疾患や日和見感染症あるいは生産病が顕在化したり、新興・再興の感染症が広がる危険性が危惧されています。一方、食品の安全性が国民の大きな関心事となり飼料添加物や抗生物質、ワクチンの多用による家畜衛生、飼養管理にも問題が指摘されるようになっていました。これは他の分野に比較して、ワクチン市場に拡大傾向が見込まれることや国内での規制緩和によるものと考えられます。

1970年代から1980年代にかけて世界中の豚で原因不明の流行性下痢が発生、流行しました。それらの下痢便中にはコロナウイルス様粒子が発見され、既知の豚伝染性胃腸炎（TGE）ウイルスとは異なる新しいコロナウイルスとしてPEDウイルスと命名されました。1996年には南九州を中心で本病の大発生がみられ、死亡頭数が4万頭にも及んでいます。演者はPED発生農場の惨状を目の当たりにされた経験を踏まえて、これらの発生状況、疫学成績、病態、診断、予防法について紹介されました。第二製造部開発室で検討中のワクチンの開発が待たれます。

### IV 豚流行性下痢（PED）について

1998

「いしがき」300号の発行を迎えたこの年は、「化血研の森林(もり)」植樹祭が行われ、環境の保全に貢献してゆく財団としての方向性も明確化してゆきました。



## 企業にも三つの坂あり

—— 騒らばず、嘆かず、耐えて勝つ ——

所長　酒匂  
光郎

行政改革を火達磨になって行うと公約した橋本内閣も郵政事業民営化で激しい抵抗を受けたのをはじめ、沖縄基地問題など遅々として進まず、政党間の論戦の方が強く感じられます。

一方、経済大国と云われた日本をはじめ、基盤が虚弱と云われながら経済成長の伸びが目覚しかった東南アジア諸国が、タイの通貨不安にはじまり韓国経済まで及ぼす混乱と、金融業界の激動等の中、企業種共、先が見えないまま平成九年が終り、平成十年の年明けとなりました。

私共を取り巻く環境も「血液行政のあり方に関する懇談会」「ワクチン総合施策検討委員会」の提言、「公益法人に関する基準の改正」など、すべての担当部署が大きな検討項目を解決していくかなければならない問題が山積しております。当所では、職員の皆さんとの協力のもと、「二十一世紀」に向けてあらゆるハード面・ソフト面の検討、実行を着々と進めており、各委員会諸君の弛まざる努力に心より感謝いたしました。

「まさか」の時は坐折する事なく、克服して行く事が大事と思い年頭挨拶の題といいました。

昨年の下半期は、営業実績を見ると「まさか」という坂に遭遇した感が大であります。我々は、この「まさか」と思った坂をどうしても克服しなければなりません。この坂は、思われる時

す。

本年は、昨年より一層進行を速めねばなりません。化血研を永続させるため、耐える時は耐え、よろこぶ時は共によろこび、基盤を尚一層強固なものに充実すべく各自の任務をしっかりしと目標にかかげ、必勝必達の信念のもと、平成十年を突き進んで行きましょう。

平成九年度より平成十一年度までの中期経営計画を作成しました。この中に述べています経営方針と重点課題を基として実行して行きます。

昨年度上半期の実績を昨年十月に各部毎に報告して頂き、略々、計画通りの進行状態であることを聞き心強く感じた次第であります。

人生には、「上り坂」あれば「下り坂」もある。そして「まさか」という坂もあると云われます。これは企業においても云える事であり、表題に掲げ副題として「上り坂」の時は騒らない事、「下り坂」の時は嘆いてばかりいないで、上昇させる努力をする事、

No.298(3月号)より

第1回

## MR認定試験について

営業部 学術第1課 福島 浩



表1 診療情報担当者教育センター役員・評議会名簿（五十章原）

理事長	高久 史麿	自治医科大学 学長
理事		
	上田 廉二	東京都多摩老人医療センター院長
	上野 公夫	日本製薬工業協会副会長
	鎌田 薫	早稻田大学医学部教授
	杉浦 好昭	医薬工業協議会会長
	三宅 浩之	日本医療情報センター理事長
	森岡 広夫	日本製薬団体連合会会長
	山崎 幸夫	千葉大学名誉教授
	渡邊 俊介	日本経済新聞社論説委員
監事		
	利郎 脩二	医療用医薬品製造業公正取引協議会 専務理事
	滝澤 英一	さくら銀行常務取締役
評議員		
	井田 良	慶應義塾大学法学院教授
	上原 昭二	元日本医薬品直販メーカー協議会副 会長
	梅田 昭夫	仙台日本医科師会副会長
	浦川 道太郎	早稻田大学医学部教授
	猿田 享男	慶應義塾大学医学部医学部長
	菅谷 忍	仙台日本医科師会常任理事
	鈴木 正	仙台日本医療品工業協会会長
	瀬戸 四郎	日本臨床検査協業会常務理事
	中島 新一郎	日本病院薬剤師会副会長
	藤原 富男	大阪医薬品協会会长
	吉本 輿一	日本薬剤師会副会長

別表の「財團法人医業情報  
育センターラー」(昨年12月設立、  
理事長)で、慎重に検討を重  
んじて、2月5日付で、各会員  
がかかる高いように思えますが、  
活動をしているMRの約20

大変厳しく結果だけに思えます。医事比率が高くて、当所の医事比率は約50%、科別医事比率が高くない。(名医、薬業平均30%) 中で、受診者13名全員が結果を喜んでいました。(吉田口、錦町) 医業比率を取り戻すには、大変厳しく、MR21世帯に向け、資格が業務遂行の必須条件になると中で、医業比率が回復するが、貢献と合意したことば、大変喜ばしいことです。所外で、日後業務に励みながら、努力を

No.296(1月号)より

明日を見つめて  
今日を確かに  
田代 昭 次

激動の年と思う  
将来的動向を見抜き、  
適正に対処すべし

手応えある仕事で  
寄りたがって  
元気よく

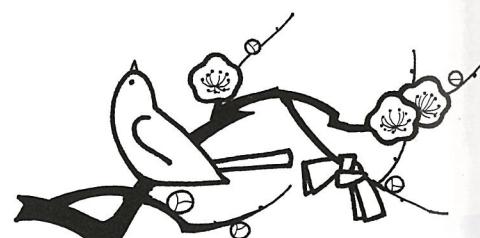
集中徹底

重点志向

木本 勝助

杉本紘一

業として、第1回の「これまでの一筋」  
力、「氣力」「体力」で、その要の部署で、  
来紀へ向け、すべての部署で、基礎体力をしつかり作り、中期計画の二  
年目を進んで行きましょう。



特集

# ザ・インタビュー

いつも感謝の気持ちを大切に

島の「さつま白波」で知られる本坊酒造に一年間

おりました。その後昭和三十一年十月十五日、化

血研に入所させてもらつたわけです。

○現在は入所後人事研修がありますが、所長はそ

のまま現場にいかけられたのですか?

○ご家族・兄弟について教えて頂きたいのですが、

所長●以前は随時入所していたので、直接現場に

配属されました。

○人所当時の苦労話を是非聞かせていただきたい

のですが。

所長●ああいですよ。室内が熊本出身だった

でこちらに移ったんですよ。当時は化血研の日給が

三百円、一ヶ月になると七千五百円ですよ。その頃

子供のミルク代が月四千円かかっていたことだけは

忘れません。

○一ヶ月ですか? 食費だけではなくなんでもして

まいですね

所長●そうそう。でね、子供が産まれる前の鹿児

島にいた頃は、室内も共働きで学校に勤めていた

のですが、子供が産まれてからは、七千五百円の給

料のうち四千円をミルク代に使つていたので、給料

日は室内が貯めていた自分の貯金をおろしていま

した。そういう時代だったんですよ。その間だいぶ

組合の方もさせてもらつたけど。

それからな、その頃所内にはまだこの駄菓子があり

来なかつたんです。女性についてはあまりおもしろ

くないわけですよ。清水に移るとそもそも「いいでも

もつて作つて欲しい」という要望がありましたけど

それは無理だろうといつて、床屋はそこで閉店

してしまつたわけです。

それからな、その頃所内にはまだこの駄菓子があり

来なかつたんです。女性についてはあまりおもしろ

くないわけですよ。清水に移るとそもそも「いいでも

もつて作つて欲しい」という要望がありましたけど

それは無理だろうといつて、床屋はそこで閉店

してしまつたわけです。

それからな、その頃所内にはまだこの駄菓子があり

来なかつたんです。女性についてはあまりおもしろ

くないわけですよ。清水に移るとそもそも「いいでも

もつて作つて欲しい」という要望がありましたけど

それは無理だろうといつて、床屋はそこで閉店

してしまつたわけです。

## 酒匂 光郎 所長

テクノセンターロボット画

1996.5.24

わけですよ。そうすると話し声などが響き、周りの人たちに迷惑をかけていたんです。そこで近所の皆さんに何か恩返しをしなければいけないと想って、何をしようか考えた結果「床屋にしよう!」といふことになつたんですよ。当時は年末になると床屋はどこもいっぱいになつてしましました。そこで近くの官舎の人たちが化血研の中の床屋で散髪してもらえないかなどということではじめただですよ。虔誠さんと保健所に行って理髪業の許可を組合

ませんでしたので、お城の近くの磐根橋のそばで買ひに行なければいけなかつたんですよ。それが不便だということで組合で煙草販売権をとる

わけですよ。それで何故夜中に部長さんがこられたのですが? ところどころで何故夜中に部長さんがこられたのですが? お城の近くの磐根橋のそばで買ひに行なければいけなかつたんですよ。それが便だということで組合で煙草販売権をとる

れました。すると夜中の一時過ぎに部長が「裏面田にやつてるが、」と様子を見に来られたんですよ。最初は課長から当直したと書かれてるわ、今度は部長は夜中に来られたね。思ひ出といえば、まだ化血研が古京町にありました。血液銀行がありました。供血者が朝早くきて、寒い冬はそこら辺の木でたき火をして暖をとる

もんですね。

所長●どうやら街で飲んだ帰りだったみたいですね。

特集

ザ・インタビュー



『それは知りませんでした。大抵のことは失敗であります。でも、たぶん、それだけでも化血筋に床屋があるんですね』  
所長●そうですね。組合で理容師を探して雇い、舊金は組合から払っていたんですよ。  
◎では、もしかかると散髪料は無料ですか?  
所長●いや、いや、それはいくらかはなります。ただ、安くね。床屋の評判は良かったのですが、女性の職員から「バーマもやつて欲しい」という要望がありました。しかし、バーマは時間かかるので当然出



S34年、長男利夫さんと

酒匂所長とインフル

したが、私が時々総合の人たちに書くのはね  
やりたい事を自分たちでやってみで、そういう組合の活動で今思っても、床屋は本当に面白かったですよ。  
◎やつてみて初めて苦労や良さがわかるものですよ。  
からね。

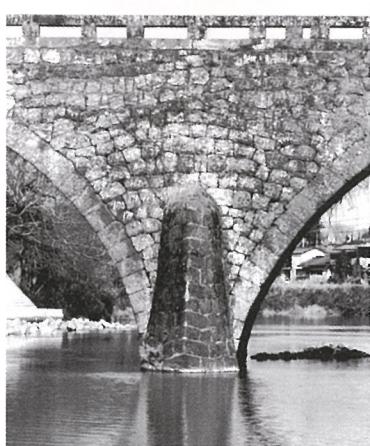
◎ でもそれがずっと続いて、インフルと同じは活  
句所長という感じを受けますけれど。きっと、そや  
は運命だったのでしょうね。所長はインフルの課題  
をされていた頃もあつたそですぐ。  
斤長● そうです。その後一ヶ月ちょっとで

現場にはシャープレスという高速遠心機が一台あって冬場結露とオイル切れをしないようにはずつと見ておく仕事だったんです。そこから動いてはいけなかつたので「その前で本読みで勉強せえ」と言わ

所長・結構、全部検定に合格しなかつたんですね。大変なダメージを受けました。しかし、この時は画面の皆さんに助けてもらいたい直面のことが出来ました。皆さんのお陰で化血研の仕事というのではなくて、立つてやる仕事なんぞ何う二人では出来ない



- 表紙写真によせて
- 300号発行によせて
- 歴史エッセイ
- 寄稿文



## 植樹祭レポート

## 化血研の森林

総務部総務課 猶野 輝彦

矢部内大臣国有林、標高870m(昨年植樹祭を行った造林地に隣接しています。)「化血研の森林」の近くには「漁民の森」や「子供の森」もあります。

目的●●●

水の大口取水事業所である化血研が、昨年に引き続いて水源かん養をより一層推進することを目的としています。

植樹本数と種類●●●

3.68ヘクタールに約11000本、ケヤキやブナなど8種類。全て高木落葉広葉樹です(木が成長したらその落葉がスポンジの役目を果たし水を蓄えます)。

そんなわけで、皆さん一度は「化血研の森林」に行つて見ませんか?渓流釣り、林道越えのツーリング、国見山への登山等、運が良ければ鹿に遭遇できるかもしれません。アウトドア大好き人間にはたまらない場所だと思います。但し、現地に行かれた際は苗木の成長を助ける下刈りもして下さいね!

去る4月19日、矢部内大臣国有林において植樹祭が行われました。

植樹祭当日は快晴の空のもと、化血研職員や、熊本営林局、矢部営林署、矢部愛林の方々、総勢50数名で苗木を植樹しました。急な斜面に悪戦苦闘しながらも、心地よい汗を流してきました。

それでは、今回の「化血研の森林」をご紹介しましょう。

場所●●●

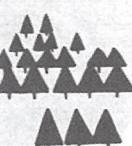
酒匂所長のご挨拶



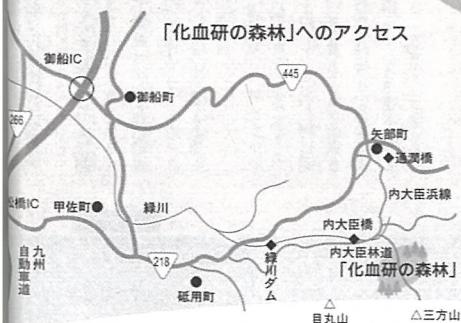
野北矢部営林署長のご挨拶



坂本熊本営林局企画官のご挨拶



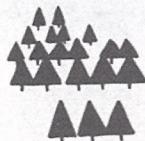
「化血研の森林」へのアクセス



1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005



生管、石原課長の娘さん  
ナオちゃんも頑張りました



植樹作業開始



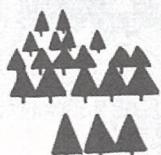
苗木を植える穴を掘っていたら  
なんと、山椒魚が現れた!



植樹の記念プレートに熱心に  
何かを書いている松田次長



植樹を終えて昼食タイム  
作業を終えた後のおにぎりはおいしい!



田代理事の閉会の辞



標柱を囲んで、みんなで記念撮影

Aso.  
posium

No.305(9月号)より

# Aso 阿蘇シンポジウム

## Symposium

研究管理課 前田 敏宏



続けるのである。

さて、シンポジウムが近づくと、これまで参加予定だった先生のキャンセルや追加がにわかに多くなる。その度、宿泊表やスケーパー表を作り替え、対応していく。

シンポジウムの当日は、まさに緊張の連続である。午前11時ごろから先生方が阿蘇観光ホテルに集まってくる。受付の担当者は先生の顔と名前を即座に判断し、ネームカードと資料をお渡しする。

12時すぎにピックを迎え、受付は、バーット状態になる。講演の先生方は、化血研の決められたスタッフが同行し、ホテルにお迎えする。

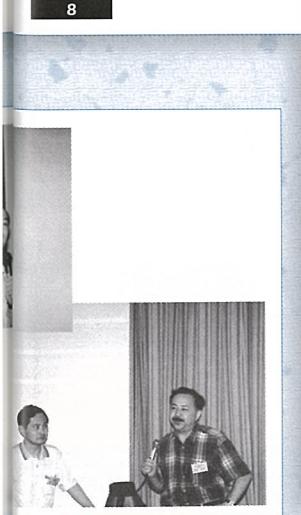
午後1時、シンポジウムはスタートする。阿蘇高原の空



# Aso Symposium

阿蘇シンポジウムは、数あるシンポジウムやセミナーの中でも極めて格調高く、純粹に学問に徹した第級のシンポジウムである。これも世話人の先生方や講演者の皆様の尽力のおかげといえる。今回は、そのシンポジウムを裏方の事務局員の立場から紹介してみたい。

阿蘇シンポジウムの準備は、ちょうど1年前から始まる。まず、一年前に日程の設定と会場の阿蘇観光ホテルの予約を行う。そして、世話人の先生方より、シンポジウムのテーマと講演予定者の先生の名前をいただく。それをもとに、講師の先生方と交渉し、講演の了承をもらい、題目を決めてもらう。この間、長いときで数ヶ月を要する。シノボリの演題が揃うと演題案とポスターを作る。今年は、免疫学の「コーキー・ロード」というテーマで、最新の免疫学の知見が報告されることになった。そのためか、参加希望者は過去最高を数え、事務局はうれしい悲鳴を上げた。しかし、昨年の1.5倍の参加者にどう対応するか。会場の広さは大丈夫か。先生方の宿泊のため、どうよつて部屋割りをするか。講演者の送迎や阿蘇までのルートはどう決めるか。どれひとつとっても神経のギリギリするような仕事である。うまくやつて当たり前、ミスがあったら取り返しがつかない。こんな作業が一番大変なのである。阿蘇シンポジウムの裏方は、こういう毎日を一年近



# Aso Symposium

例年以上にして、会場には近寄りづらいところへと開催される。午後一時前によつやかに田舎を終え懇親会に入る。世話人の先生や酒匂所長の挨拶でこれまでの緊張が少しごとけ、出席者一同懇親会にけ込んで行く。つむじのところだが、阿蘇シンポジウムの懇親会は、本当に気持ちいい。

アカデミックだ。著名な先生方と直接話が出来る場でもあるので、化血研の職員もチャンスを見計らつては、先生達の門へタクシードする。特に若い研究者には、貴重な場といえる。懇親会は夜遅くまで行われ、2次会、3次会といつてける方もいる。遅い人では午前3時近くまで、結構いる。翌朝はホテルの温泉で目覚まし、心と頭を清め、2日目の講演に入る。2日目になつても受付する先生がいる。裏方に休みはない。晩の12時になり、2日間の阿蘇シンポジウムによつやく幕がおりる。今年は本当に盛会であった。先生方も充実感が漂う。免疫学の「ヨーロッパ」ニア、その名のとおり、今回のシンポジウムは免疫学に新しい風を吹き込んだよいである。我々裏方は、先生方の帰りの準備にとりかかる。

足の準備や事後の処理に走り回る。先生方の予定外の行動にしても対処し、午後2時になるとようやく一段落つてしまふ。ほんとうのひとときである。しかづけとぎ来年の阿蘇シンポジウムの日程が定められ、その準備が再スタートするのだ。

来年も今年のよつて盛りであることを祈りながら事務局一同、また新たな歩み踏みしめるのである。



第22回阿蘇シンポジウム  
テーマ 免疫学の「ヨーロッパ」ニア  
司会 渡邊武・西村泰治・柳雄介

阿蘇シンポジウム  
マ 免疫学の「ヨーロッパ」ニア

株式会社化血研が50年の歴史に幕を下ろし財団へ移管した年です。本所では、R棟が竣工し製造プロセスの基盤が確立してゆくさきかけの年となりました。また「第1回AIM」開催など、対外事業にも力を注いでいます。

# 1999

## R棟建築・設備 竣工立会検査報告

生産管理部 資材課 笠井恭介

### ● ● ● R棟建物概要 ● ● ●

■建築面積 3,570m <sup>2</sup>	■延床面積 16,651m <sup>2</sup>
■軒高 30.4m	■最高高さ 31.0m

4F } プラント設備
3F }
2F 分注・凍乾設備
1F 包装ライン、自動倉庫(資材倉庫、検定品倉庫)

元請施工者／(株)日立製作所  
建築施工者／大成建設(株)

去る平成10年12月8日に、R棟建築・設備竣工立会検査を実施しましたので、報告致します。  
R棟は、ご存知のように平成9年11月1日に工事着工し、平成10年12月10日竣工引渡を完了するまで約13ヶ月を要しました。  
竣工に至るまで、生産技術課を中心として約70件にも及ぶ立会検査、あるいは空調を中心としたバリデーション検査を行い、11月25日の消防検査、11月26日の建築検査を無事パスした後、今回の竣工立会検査を迎えたわけです。

ここで簡単にR棟の建物概要を説明しておきます。

竣工立会検査には酒匂所長をはじめ多くの方に立ち会っていただき無事検査を執行うことができました。  
今後、R棟は物流システム、生産システムのシステム稼働(2月)とともに包装設備、分注・凍乾設備の試運転、バリデーションが本格的に開始され(1月～2月)平成11年度稼働にむけてラストスパートに入つたといついいでしよう。  
尚、プラント設備については6月竣工、8月頃から順次稼働の予定で進行しております。

以上



No.309(1月号)より



## 公益法人指導監督基準レポート1 ● ● ●

## 公益法人問題について

経理部 経理課 横田 浩

はじめに

昨年暮、いしがき編集委員会事務局より公益法人問題について寄稿せよとの仰せを承りました。公益法人問題とは、株式会社化血研の事業移管と解散をもたらすなど我々を直撃している大きな問題です。しかしながら、なぜこのような事になってしまったのか?という点については、知らない方が意外と多いのではないかでしょうか。私自身、公益法人問題委員会の事務局を務めなければ知り得なかつたであろうことが数多くあります。このため皆さんに様々な問題点を説明することはやぶさかではないと、二つ返事でOKを出しました。

ところが原稿の枚数を尋ねましたら、一年間、12回に亘る連載とのお話しです。そんなに書くことは無いと主張したのですが、どうしてもと押し切られてしまいました。そういう事情ですので、内容の充実度には若干不安が残りますが、これから一年間宜しくお付き合いのほどお願い申し上げます。できる限り分かりやすい、また可能であれば面白い文章を心掛けますが、内容だけにキーワードとして見慣れない用語を使わざるを得ない部分もあります。この点、予めご承知おきください。

また、本連載の内容は、行政側の公益法人指導の中心である内閣総理大臣官房管理室公益法人行政推進室の担当官や、公益法人会計にお

詳しい公認会計士の小宮徹先生から得られた情報を元に構成しております。

## 【公益法人の定義】

公益法人とは、民法第34条に基づいて設立される団法人又は財団法人のことです。なお民法以外の法律に拠てて設立される社会福祉法人、学校法人、医療法人等も「広義の公益法人」に含まれますが、本項では民法34条に基づいて設立される団及び財団を指すものとします。

## 民法34条

祭祀、宗教、慈善、学術、技芸其他公益に関する団又は財団にして當利を目的とするものは、主務官庁の許可を得て之を法人と為すことを得

## 【公益法人を取り巻く現状】

数年前から、公益法人に関する報道を頻繁に目にすることになりましたが、これは自民党行革プロジェクトチームの報告をきっかけとしています。

かつて行政改革のひとつの中の「特殊法人」が挙げられていましたが、特殊法人に関する問題点の提起や具体的な改革案が固まつて、行政の次のターゲットが公益法人にシフトしたものと思われます。マスコミの報道は現在、一時期よりも沈静化していますが、公益法

人に関する問題点を挙げては報道するという批判的な姿勢には変化がないようです。そしてその批判は当所には関係の無いものばかりなのですが、参考までにその内容を記載しておきます。

下のようなものがあります。

(1)包括的質疑「Q、公益法人問題を如何に改革するのか?」「A、指導監督基準を厳格に運用する」

(2)Q、国との関係の深い公益法人の増加防止の取り組み如何。

(3)Q、補助金を受けており、かつ居酒屋を経営している公益法人がある。この補助金給付は如何。

(4)民主党から公益法人に関する膨大な量の資料請求が行われました(各個別公益法人へ質問書等)。現在、公益法人は約二万六千法人ありますが、全ての公益法人に関してこれららの資料を提供することは、ほとんど不可能な要求であったため相当な削減を要請したとのことです。それでも前回は全事案について70ページだった提出資料が公益法人関係だけで100ページ増加したそうです。

②天下りの温床となつてゐる。行政からの指導が厳しく追及されるわけですが、この類の報道が件数的には最も多いそうです。

③天下りの温床となつてゐる。行政からの指導が不十分であるなど、むしろかと云うと行政に向けた批判です。

④公益法人そのものの売買…」承認の通り、法人税法上は株式会社等の営利企業よりも公益法人の税率の方が低く定められています。

このため、公益法人を支配下に置き、節税に利用しようとする者がでてくるわけです。この件に関してはNHKも特集を組んで放送しましたので、田口された方は多いと感じます。

また、「アベノミクス」の批判ばかりではなく、国会においても議論されてきました。そもそも古くですが、第140回通常国会で公益法人問題に関連して提出された質問や要望などには以

# 株式会社化血研の事業移管と解散について

株式会社化血研は、本年4月1日をもつてその全事業および社員を財団に引き継ぎ、その後解散することにしました。この決定に至った経緯は以下の通りです。

平成9年12月16日に「公益法人の設立許可及び指導監督基準(以下「指導監督基準」)」が閣議決定され、財団法人が株式を保有することが原則禁止とされました。

株式会社化血研は、周知の通り当所の100%出資子会社(株式の100%を当所が保有)であるため、急ぎ現状を是正しなければなりません。上記の方針は、この是正策として決定したものでした。

最も単純な解決策は株式の全部を第三者へ売却することです。しかし、株式会社化血研の資産規模からして、買収しようという第三者の出現は期待薄です。また、仮に会社を売却できたとしても、指導監督基準では株式保有による資本的支配とともに、役職員の兼務・出向による人的支配も禁じられています。出向者の処遇が問題となります。さらに、完全に第三者の所有する会社となれば、これまでのように財団との協力関係を維持することは困難となりましよう。

この他、株式会社を「株式保有原則禁止」の「原則」からはずすことによつて保有を継続する方法はないか等、実際に様々な案を多面的かつ十分に検討してきました。そのうえで、最善の策として株式会社の事業を財団として許容される形で継承し、株式会社そのものを解散するという結論に至つたものです。

以上のような背景を踏まえて、本方針に対する皆さんのご理解とご協力を願いします。

なお、化血研ビジネスサービス株式会社も株式会社化血研同様に現状を是正する必要がありました。しかしこれは、その規模が小さいことから部長以上の役職員に売却することにて処分しました。また、株式会社化血研の解散に伴い、黒龍江化血研生物技術有限公司は最終的に財団の出資下となってしまいます。これでは、再び株式等の保有問題となりますので、次のような方法で問題を回避します。

指導監督基準には、株式等を保有しても良い例外が2つ明示されていますが、そのうちのひとつに「基本財産」とすることを指定して寄附された株式等」が挙げられています。合弁会社は、この例外規定に沿う形での処分、即ち基本財産とすることを指定して株式会社化血研から財団へ寄附することとします。これにより、合弁会社は従来に近い状態で存続することになります。

当所では、本年3月末日までの間に株式会社化血研と協力して、その事業をスムーズに引き継ぐための種々の検討と実務作業を進めています。従業員の皆さんのが、正しい理解のもとに、この作業に一致協力してい

## (株)化血研解散スケジュール

● 平成11年3月31日

(株)化血研の合弁会社に対する出資持分

## 所内報告

50年のあゆみ(特別号)より

## 写真で綴る50年



昭和24年頃 京町研究所全景



昭和38年頃 東京(株)化血研玄関にて



昭和23年頃 京町研究所事務所風景



昭和38年1月4日 (株)化血研 福岡 社屋前にて

1999年9月6日  
株式会社化血研は  
50年の歴史に幕を引きました。



## 平成11年5月下旬

- ①(株)化血研から財団へ事業譲渡
- ②財団へ(株)化血研出向者は復帰(解散・清算に要する職員を除く)

## ②清算作業開始

## 平成11年9月

## (財団の株式処分期限)

- 清算終了、清算所得の申告、残余財産を株式(財団)へ分配

(財)化血研司催

# 【第128回日本獣医学会学術集会】が 熊本市で初めて開催されました。

## 経緯

免疫制御の分子戦略



先の10月13日(水)～15日(金)の3日間、熊本市民会館、熊本市国際交流会館及び熊本市産業文化会館で、化血研(以下当所)司催による「第128回日本獣医学会学術集会(会長・山田進二)」が開催されました。この学術集会は日本獣医学会が主体となって、大正11年の第1回以来、ほぼ年2回(春は東京で、秋は地方で)実施されています。司催機関は、主として獣医学部(学科)のある大学が担当してきました。大学以外では、家畜衛生試験場、国立公衆衛生院、日本生物化学研究所(日生研)、千葉血清研究所、日本中央競馬会競走馬研究所なども司催経験を持っています。九州では、鹿児島

大学と宮崎大学以外では開催されたことがなく、熊本市で、しかも当所が司催を引き受けるのは初めてです。

当所が本学術集会を司催することになった発端は、3年以上前まで遡ります。平成7年9月、当時日本獣医学会監事の御一人であった故倉益茂実先生(日生研)から、当所の山田進二常務理事(当時に獣医学会司催の打診がありました。その後、当所常务会でこの申し出を受けることが決定され、今回の学術集会司催が実現した訳です。学術集会の司催は当所にとって非常に名誉なことです。これは、これまでの当所の獣医学分野での研究業績が、広く世間に認知された結果と言えます。昭和23年に当所が動物用生物学的製剤の開発に取り組むようになって以来、多くの先人達が延々と積み重ねて

あた数々の業績があつたればこそ実現できた快挙です。

当所による学会司催が決まるごとにその準備に取り掛からなければなりませんが、その頃は誰もが「まだ3年先だ」という気持ちでした。しかし、今振り替えると、その3年は瞬く間に過ぎてしまったようです。開催を無事終了できた今、その準備と開催に関する概況を取りまとめてみました。

## 開催準備

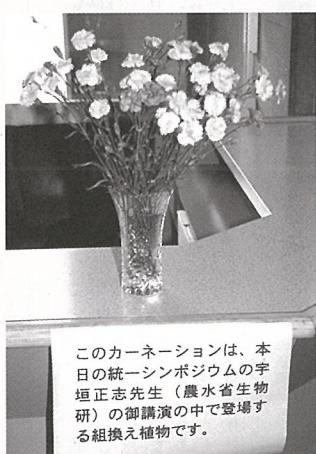
最初に取り組んだのは、運営委員会とその下部組織(いわば実行部隊)の準備委員会の設立でした。運営委員会には運営委員会規約も制定しました。開催に向けての計画は、準備委員会のメンバーが中心となって作成、これを運営委員会に報告、承認してしてもらいう形で進みました。最終的には運営委員会が5回、また準備委員会が12回開催されました。

学術集会会場の選定は地の利を重視し、前述の3会場としました。必要な会場数を確保するには狭い会場(室)も設定せざるを得ませんでしたが、何とか確保出来ました。

最も重視し、苦労したのはプログラム編成です。開催3日間の演題アロケーションをどう組むか、学会本部とも十分に打合せ、当所の特色を生かしたものを目指しました。その結果、統一シンポジウムやワークショップ(10テーマ)を組み入れ、ポスター発表もセッション毎に小部屋を設定し、座長と演者の口頭説明を採用しました。さらに、教育講演、公開講

生理・薬理、解剖、繁殖学等)の演題区分けや座長選定が難しかったためです。

プログラム掲載の講演要旨集作成は開催前の最大の仕事でした。印刷製本は業者に依頼しますが、その構成と校正は全て当所の責任になります。人名(所属)の印刷ミスは皆無を目指しました。過去の学会では多くのミスを見ただけにこの校正には最大の注意を払つたつもりです。しかし、結果的にはお一人の名前が間違つてしましました。この先生には大変申し訳ないことでした。講演要旨集の末尾には人名索引を載せましたが、これも大変苦労したひとつです。外国の先生や特殊な読み方の先生の名前は特に注意が必要でした。



2000

この年は、酒匂所長から内野所長へ役員人事が行われました。ECOプロジェクトが立ち上げられ、ISO14001認証取得へスタートしました。

## 試薬事業撤退にあたつて（試薬関係者懇談会報告）

試薬・臨床検査部試薬課（元） 青山紀昭

3月17日、メルバルクにおいて標記の会合が開催されました。化血研試薬事業撤退が完了した機会に、化血研で試薬の開発・製造・営業に携わってきたメンバーが、同会し、懇談するという趣旨で、試薬課に最後まで残った人、他部署に異動した人、関連部署の人既に化血研を退職し別の企業で活躍している人々、63名もの多くの方々の参加がありました。酒匂所長には、当日銀杏大学の卒業式謝恩会と掛け持ちで参加して頂きました。所長、船津常務理事、岡理事から、試薬事業撤退を決断した経緯、培つた力を他の部署で發揮して貰いたいという趣旨のご挨拶を戴きました。その後はアルコールのせいで良く覚えていませんが、司会の梅橋部長の指名により多くの方のスピーチで賑わいました。



試薬事業は、昭和45年血液銀行解散後長崎から戻った嶋田調査役が、結核培地、管理血清等の製造を始めたのがそのスタートです。その後、大橋先生、大友先生、宇野木部長等の指導により多くの製品が開発・上市されました。最初は研究開発部の試薬製造チームでしたが、第1製造部3課、試薬プロジェクトチーム、試薬・臨床検査部と組織を変えてきました。開発部門は、研究開発部化学生チームが、菊池研究所に移るときに、第一研究室となり、その後



発を継続してきました。その間、ボリアミン酸人工担体粒子、レ型酸素ガントロール血清、H.C抗体測定試薬、T.F.P.-I測定試薬等、他社にないユニークな製品が多く生まれています。また、以前は製造、品質検査、分注、包装をすべて製造課で実施していましたが、G.M.P.の思想に合わないとから夫々の関連部署に業務を移してきました。今までいくらかでも試薬の製造開発、営業に携わってきた人は100名をこえています。幕を引くのは関係者にとっては残念ないじめあります。K.G.M.P.のシステムに乗せるのが困難な試薬を、医薬品と同じ建物、システムで製造することにも無理がありました。撤退に当たっては販売会社に迷惑がかからないよう、商品寿命がある製品は、可能な限り製造承認承継及び技術移管しました。今後は、ニューセロクリット・4品目(HBs、抗HBs、TP、抗HTLV-1)とR.P.R.テストが三光純薬精度管理用血清がオリエンタル酵母、イムノクロマト試薬がアドテック社により製造が継続されます。



最後に、多くの方々の協力による支援を得て、円滑に業務を終えることができました。特に、職員、パート全員が化血研を辞めるといな他部署に異動出来るよう配慮して頂いた人事課及び受入担当部署、試薬課が所有していた資産を所内でも有効に活用できるよう努力して頂いた生産管理部、承継の手続きをして頂いた薬事部に感謝いたします。簡単ですが試薬関係者懇談会、撤退完了の報告をいたしました。

No.325(5月号)より

## The First Aso International Meeting (AIM) Thrombosis, Hemostasis and Vascular Science 1999

# AIM 「阿蘇インターナショナル・ミーティング」 開催される!!

青空のもと阿蘇五岳を背景に記念写真～参加者の笑顔がわやか～



せひね

本誌11月19日～20日の両日、化血研の主催で、  
「Aso International Meeting (略称AIM)」  
Thrombosis, Hemostasis and Vascular Science  
1999を久留米市南阿蘇において開催されました。

本会は阿蘇・シボジウム家畜衛生講習会に次ぐ当所の二つめの公益事業シンポジウムとして計画したものです。本会は、血栓止血学や血管病学の分野で活躍されておられる国内の若い先生方の研究に、化血研として何とかお役に立ちたいとの希望から、国際レベルでのミーティングを開催し、研究成果について自由に論じ合える「場」を提供することを目的としたものです。

平成10年9月に第1回世話人会を名古屋で開催し、本カーファレンスの名称、開催日、会場、参加人数などが取り決められ、本会規約の議決をもつて本格的な準備作業に入りました。これ以降AIMの開催進行に至るまで、シボジウム企画に渡る指導をいただいた世話人の先生方は次の通りです。

名古屋大学医学部 斎藤英彦先生(代表世話人)  
京都大学医学部 中尾和先生  
東京大学医学部 安藤謙一先生  
熊本大学医学部 岡崎研一先生  
自治医科大学医学部 坂田洋一先生  
自立循環器病センター研究所 宮田敏行先生

# Executive Interview

エグゼクティブ・インタビュー

常務理事 内倉 重人

Q：化血研をどのような研究所にしたいですか？

内倉理事▼これまでに既に所長や副所長が述べられていることと同じような内容になるかと思いますが、化血研は従業員数がやがて約1300人にもなるとしている中で、今後も社会の中でしっかりと存在意義を持ちながら永続していくことが勿論大切なんですが、その為には、いたずらに、あれもこれもと手広く拡大追求するのではなく、自らの得意分野が何であるかよく認識し、絞り込み、その得意分野では常に一流を目指していく集団でなければならぬと思います。その絞り込みの厳しさと集中こそが、これから化血研の将来を左右するし、それによって、化血研が国内はもとより世界でも通用するレベルの一流中堅企業を目指すことになると思います。

事業の観点から言えば、血漿分画製剤、人体用ワクチン、動物用ワクチンの3分野が我々がこれまでに戦う場として選んできた事業分野ですが、それぞれの分野で、国内では最低でも常に業界3位以内の地位を確保していくことが重要で、それが化血研としてのプライドであり、社会における存在意義にもつながっていくと思っています。

Q：化血研の従業員に望むことは？

内倉理事▼最近実施された企画部の調査によると、経営基本方針が改定されたことを知らないと答えた職員が結構いたり、あるいは若い人の中からは、化血研の将来像、方向性が見えないという声が聞こえたりすることがあります。

組織的には、経営基本方針、長期経営計画、中期経営計画、毎年の業務計画という形で目標や施策は明確にされているんですが、それらがきちんと適切に伝達されているのかどうか不安も感じます。私自身、意思の疎通や方針の共有化については、経営幹部としての努力不足を反省しますし、中堅管理職層には情報・意志の伝達努力を更に期待するところもありますが、何と言っても、一人一人の職員が化血研に対してもっと強めの関心を持ち、知ろうとする努力、語ろうとする積極性がなければ本当の意味での風通しのよさ、意思の疎通にはならないと思います。つまり、各人が化血研を心底、大好きになつてももらいたい。そして、「化血研は自分達がえていくのだ、支えていくのだ!」という夢と気概を持つて欲しいんです。



## Executive Interview ●



分画製剤事業に関わった、特に営業での私自身の経験を振り返ると、静注グローブリンが上市された時は全くのゼロからのスタートでしたので、成功もありましたが、ここでは一々言いませんが大失敗も数多くあり、大変な苦労の時期があつたわけです。それでも、常に「医家向け営業の基礎は自分たちが創っていくのだ! 化血研は我々が支えていくのだ!」という想いで、試行錯誤の中、無我夢中でやってきたと思います。その結果が今日の分画製剤事業の姿になりました。

最近では、人体用ワクチン事業が、技術部門と営業部門が一体となつて取り組む体制になつてきたと感じます。本事業に関わる人達が、「俺達が何とか化血研を変えていく! 俺達が化血研を支えていくんだ!」という気概と夢を更に強く持つて、一丸となつて進んでいければ、近い将来に必ず業界トップになれると思っています。また、化血研が世界にも通用する研究所になつていけるのではないかと本当に期待しています。

この「俺達が!」という想いがことのほか大事だと感じるわけで、化血研の将来の姿とか、企業としての永続性などは、結局のところ上からの御仕着せじやダメで、自分達が何をどうするのか、どう変えていくのかという想いと努力によつてのみ実現できるものだと思います。そのような想いを、特に若いには強く持つて欲しいと感じます。

また、そうすることによって、化血研は我々にとって日々の働く場所であるわけですから、皆がやり甲斐を感じ、将来に夢が持て、かつ楽しく働ける職場であつて欲しいと思います。

文責・インタビュアー ● 総務部 総務課 村里憲一

つてゐると思います。このことは営業部門に限らず製造部門においても船津副所長はじめ、皆がそういう思いでやつてこられたと思います。

# Executive Interview

エグゼクティブ・インタビュー

理事 田代 昭

Q…化血研をどのような研究所にしたいですか？

**田代理事**▼一般に、企業が存続・発展していくには、次の3つの要件が達成されなければならないと言われています。まずその第一は、「利益を上げること」であり、これを前提とした「従業員の幸福」を達成しました。同時に「社会的責任の遂行」を実現していくことと言われています。今日の化血研は、多くの先輩方の並々ならぬ努力により築かれてきましたが、特に、昭和50年代における飛躍的な発展を遂げて以来、多少の紆余曲折を経ながらも、これら3つの要件はその時々の時代を反映して達成されてきたと思います。特にここ数年来、公益法人問題の議論を通して、医学・獣医学分野における研究発展および地域社会に対する貢献など、第三の要件に関連することを積極的に取り組んできています。

当所が、今後も堅実な発展を実現していくためには、第一の要件を達成していくことが絶対的に求められる訳であり、その中で最も重要なものは新製品開発であると思います。新製品開発は企業活動の原動力であると思います。従つて、それに見合つだけの世界に通用する技術レベルを発展・維持し、それを駆使して一番を目指し、目標を達成していく集団にしていかなければならぬと思います。しかし、新製品開発には長期間を要するため、第一の要件を着実に実現していくには、生産部門、営業部門およびその他の間接部門における生産性の向上が達成されないといけないのは勿論です。

当所は常に独自のターゲットに向けた新製品開発を推進していくための高いレベルの技術集団としての活動が維持されるべきだと思います。当所の目的に沿った形での大学などの共同研究活動も、最終的には新薬に繋がると的確な目標と信念を持つて積極的に展開していくべきだと思います。

企業における基礎研究というのは、いわゆる探索研究であり、将来の新製品開発に結びつくシーズを求めるものがあるので、一方ではこのような地道な基礎研究の積み上げも必要となる

ります。

また、外向けには、このような当所の活動を良く知つてもらうためにも、地域社会や業界あるいは国内外の活動にも参加していくことも大事なことと思われます。一方、内部に目を向けると、従業員も約1,300名という規模になり、各部門の業務も複雑多岐に亘るものになってきています。しかし、それぞれの部門の業務目標達成のために眞面目に取り組む姿勢や家族的な雰囲気は伝統的に継承されていると思います。いろいろと述べてきましたが、当所が今後も長く存続・発展し、次の世代に引き継いでいくことが私達の責任であります。そして、当所は目標を達成していく技術集団というものが目指すイメージであり、従業員から「化血研で仕事ができて良かった」と思われるような企業であり続けたいと思います。

Q…化血研の従業員に望むことは?

**田代理事**▼私自身は、入所以来研究部門に所属し、新製品開発業務に長年携わってきました。この間、それぞれの目標を



## Executive Interview ●



達成するまでに多くの困難な課題に直面しながら、それをクリアしたときには、喜びを感じ、また、それを楽しみとして次の課題に取り組むということを経て、それが新薬として上市されるとなれば何物にも代えがたいものであることを実感してきました。研究開発業務は、最終到達まで長期をするため、多くの壁にぶつかり、全く進展を見ないこともあります。研究開発に限らず全ての業務も解決困難な問題を抱え込んだときの苦しみは、解決したときの喜びに完全に解消され、更に大きな力を与えてくれるものであると信じています。

従業員の皆さんに望むことは、楽な仕事というものは世の中には存在しないし、苦しいことが多過ぎるというのが現実であります。それだけに「仕事を樂しく」やつてももらいたいところです。そのためには、何と云つても自分の仕事を愛する」とだと思います。若い世代の価値観は多様化しているようですが、あえて価値観を押しつけると、自分の仕事を大事にし、目標達成のため眞面目に取り組む努力、結果に一喜一憂しながらも確実に前進していく実行力を身につけて、それを最大限に發揮してもらいたい。このようなことが、上司や同僚・後輩から信頼を得ることにつながるものと信じます。

もちろん、仕事を愛すると同時に、家族を大事にすること、趣味を持つことも大切な要素であると思います。趣味についても、中途半端では駄目で、没頭するくらい「一生懸命やる」とが、本当の意味でリフレッシュする」とは、これがまた仕事を取り組む活力になるに違ひないと感じます。よく言われるよく学び、よく遊べ』とは、シンプルだが本質的な部分に触れていると思います。

心の豊かさは、毎日の生活の中から生まれるものであり、常に仕事が楽しくできるように自分のために努力し、目標達成のために責任と自信を持って取り組んで貰いたいと思います。それが、自らの達成感・幸福な心、ひいては化血研への貢献、家族の精神的・経済的な充足につながるものだと思います。

文責・インタビュアー ● 総務部 総務課 村里憲一

# Executive Interview

エグゼクティブ・インタビュー

理事 杉本 紘一

Q: 化血研をどのような研究所にしたいですか?

杉本理事▼企業は、「コーディング・コンサーン」と言われるようになります。存続・発展することが第一です。そして、ステークホルダ(利害関係者)を意識した経営を行うことが必要です。まず、公益法人という点から考えると不特定多数の顧客を大事にしないといけません。一般大衆の公益に寄与するということです。また、当所は今年設立55周年を迎えますが、一度も解雇した事がないという事実にも示されるように雇用の確保をはかっていますし、これからも少数精銳主義を貫いて雇用を守っていくことが重要です。そして、そのような中で公益法人である当所が存続・発展していくためには、利益を上げ内部留保を厚くするようにしなければなりません。

また、今日の化血研があるのは先輩方の努力の賜物であり、「水を飲むときは、井戸を掘った人のことを忘れてはならない」と言われるように先輩への感謝の念と謙虚さを忘れないようにしたいものです。そして、公正な分配と適度な処遇を堅持すべきです。それから、21世紀に求められる企業像は、安全性や品質を第一に考える企業です。さらに、地球環境との共生もあげられます。当所も来年度にISO14001の認証取得を目指しています。環境に取り組むことは、短期的にはコストアップになるかもしれません、長期的に見れば企業リスクとしてマイナスになることはないでしょう。以上述べたようなことが、化血研がめざすべきものだと思います。

Q: 化血研の従業員に望むことは?

杉本理事▼まず、企業が存続していくためには、経営資源である人・物・設備・情報を投入し、それ以上のアウトプットがなくてはいけません。つまり、人について考えてみると、労働分配率が現在50%であることから従業員一人が年収の倍以上は稼ぎ出さなくてはいけない計算になります。その他、物や設備や情報といった経営資源についても、投入した以上のものを産出しなくてはいけません。先ほど品質重視ということを言いましたが、決められたものを守っていくというモラル・ハザードの点からみても、公益企業としてより高い観点から守つていくべきです。これまで野中先生や酒匂先生が経営方針の重点課題として取り上げられていたものを現在の経営方針でも踏襲しています。コンプライアンス(順法精神)として守るべきもの



Executive Interview ●



として独占禁止法やGMP、公務員の行動規範たる公務員倫理法といったものがあげられます。これらは、我々が行動の判断基準として身につけておくべきものだしなよ。また、コストパフォーマンスを高めるには生涯学習が必要となりますが、それには企業のバックアップだけでなく、まず、自助努力が大事です。私が常々言っています(新人研修や「いしがき」で紹介している)「三学戒」(佐藤一斎「言志録」)が必要かと思います。

少而學則壯而有為  
壯而學則老而不衰  
老而學則死而不朽

これは、次のような意味です。「若い頃学んだ事は、大人になつても役に立つし、中年になつて学んだ事は老後になつても知識欲は減退する」とはない。そして、化血研(職場)をリタイアした後も学べば、死んだ後実績として残る」というものです。企業に勤めている時は、どうしても実務を中心に行ないますが、80年という長い人生を生きて行く上では、家族や社会への貢献ということを考えなくてはいけません。これは、キャリア開発という面から、厄入り対象者に勉強会を行なっていますが、いずれも自助努力すべきものです。

皆さんは、いかにもうなじむ心がけてもらいたいと思つてゐます。

文責・インタビュアー●総務部 総務課 村里憲一

21世紀はじまりの年は、ISO14001認証取得、待望のNS棟の竣工など、内外からの評価や期待が高まる更なる努力が求められる年でした。

# 2001

## Executive Interview

エグゼクティブ・インタビュー

理事 岡 徹也

Q…化血研をどのような研究所にしたいですか？

**岡理事▼**今の従業員の数からすると中小企業と言う言葉はふさわしくない大きさになつておりますが、中身としては、「山椒は小粒でもびりりと辛い」そう言うキャラクターを持つた企業が理想ではないかと思っています。

従業員の数と言う大きさで企業を測るのではなく、いろんな方面で評価される実力、何かきらりと光るものを持つていることです。

例えば、技術的には共同開発とか、或いは販社からのアプローチとか、いろんな意味で評価してもらえるような企業ですね。ただ団体だけ大きくなると言う企業は必ずしも好ましいものではありません。

それが歴代の所長も言われてきたし、現在の所長も言われていた特化した分野で力を發揮すると言う言葉に繋がっています。

Q…企画部の立場からは如何でしようか？

**岡理事▼**企画部の責任者としては企画部が企画部らしくあります。これ一つです。大別すると企画部は、経営企画を進める部署であり、所長と常務理事の秘書業務、財团のあり方をチェックする監査業務及び所内外への広報業務を遂行する部署です。そういう仕事を十分やれるようになれば、当然、化血研はその性格が出てくるようになるのではないかでしょう。

例えば経営企画と言ふ考え方は、寄付行為、経営基本方針、中期経営計画などの脈々と流れる経営の哲学、戦略と言ふものを本当に全所一丸となつて遂行して行くようになつているのか、所長が言わされたことや部長が言つたことが従業員全てに亘つて浸透して行つているのかをフォローすることです。経営基本方針、中期経営計画、年度業務計画と

して文書化されているはずなんだけれども、その文書化されたものが眞の目標や眞の計画としてそれぞれ的人が実行しようとしているのか、或いはその実行した結果が当初の目的に達しているのかを客観的に評価し、修正し、新たな計画を作り上げるなどとして展開していくたい。

そういうことができるようになると自ずから企業は自分の力で展開できるようになつてくる、このことが企画部が経営企画的な仕事をすると言う本当の狙いだと思います。企画部がそうなれば化血研そのものが上から下までの思想やベクトルの統一ができるのです。

そんな企業になれば数少ないスタッフでも、数少ない従業員でも大きな力を發揮できるようになるのではないかと思います。

それから、広報と言う立場から言いますと、所長も言われている通り化血研を世間に知らしめることです。

これは単なる地場企業の中でアピールするだけでなく、広く化血研の技術ノウハウや実績を公表することによって、第三者から正しく評価してもらうことです。これが従業員のモラールアップにも繋がるでしょうし、外部からの、例えば共同研究などで我々を逆にアシストしてくれるよう



1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005

No.333(1月号)より

### Executive Interview ●



文責・インタビュアー・写真●総務部 猶野輝彦

な第二者の出現というのも期待できるのではないかと思います。ですから最初の質問と重複しますが、これらのことを企画部がやって行くことによつて化血研そのものの力を高めて行きたいと思ひます。

○…化血研の従業員に理むけせん。

岡理事▼まあいろいろあるんですけど、一つは真摯な生き方、真摯であつて欲しい。これは人間として最低必要な

おう一つは積極的であつて欲しい。組織が大きくなれば分業と協業のうち分業と言う面だけが大きくなりズアツアされくるきらいがあります。変に縦割りと言ふ考え方を意識しないで欲しい。

それはどういうことがと言うと、分業と言うのはそこまではあなたの絶対責任であつて、その枠を超えた仕事をしてはいけないということではないのです。

分業と分業のすきまを積極的に良い方向でお互いが埋め合つて、それが何よりも必要です。組織は団体が大きくなつてくらべ、それはどこにこの課の仕事ですかからとか、うちの部の責任ではありませんとか非常に悪い意味での縦割りになりますが、責任問題は分業であるけれども、それを超える所は積極的な協業、誰もしないのならば自分がする、そういう意味での積極性ですね。お互いのスキマを補完し合うという心を大事にして欲しい。

これからは組織も大きくなつて顔も名前もよく知らない人たちが増えてくれば、益々スキマが埋まり難くなる心配が出てきます。

また、自分で自分の仕事の範囲を決めてしまわないで頂きたい。やらないといふ前提で物事を見ないで頂きたい。自分の限界力量を最初から決めないで欲しいと思いますね。やればやつただけ人間は経験が積み重なり、その分能力は高まり成長していくはずです。自分で仕事の範囲を決めればそれだけの器でしかなくなります。そうならないようにして欲しいと思います。

生きがまだと思います。「巨人軍の選手は紳士たれ」と故正力オーナーが昔言いましたけれど、「化血研の従業員は真摯たれ」(紳士とは違うんだけれども)と望みます。

# Executive Interview

エグゼクティブ・インタビュー

理事

藤川 英雄

Q: 化血研をどのような研究所にしたいですか?

藤川理事▼この設問に対しても前にいろんな理事の方々が既に言つておられるごとに基本的には同じ思いです。化血研は創立以来、生物学的製剤に特化してきました。今後もこの得意分野でチャレンジしていくべきではないかという風に考えております。

これまでの歴史が示しているように、人・動物共に常に何らかの病気と闘つて来ています。将来も病気の形態そのものは多少変わってくるとしても、人間・動物共に生きている限り、今後も同じではないかと思っています。

そういうところで、やはり生物学的製剤に特化すべきだと言つているのです。今後も化血研は世の中のニーズに応えるような新製品を常に開発、製造して行くと言つことが大事ではないかと思っています。

それが化血研の財団としての使命ではないかという風に思っています。

今後、100周年を迎える日も存続発展し続けていくような研究所にしたいものだと思います。そのためにも生物学的製剤業界では常にトップクラスの高い技術力を持つことが必要だと思っております。

これまでも阿蘇シンポ、阿蘇インターナショナルミーティング、家畜衛生講習会等開催して公益事業として世の中にも貢献して、それが世の中にも認められているわけですが、更に私共に関連する大きな学術等も主催できるようになればと思っています。

その為には常に利益を確保し経営的に安定していかなければなりませんが、日本に化血研ありといわれるような研究所にしたいとです。

化血研は以上述べてきた事を確実にやつていけば、十分100周年を迎える事ができるようになって行くのではないかと思います。

今年55周年、あと45年と言うと今いる人は新人の方も含めていなくなっているんですね。次世代につなぐためには、私共の責

Q: 第二製造部の長としてのお立場からは如何ですか?

任はもちろんですが、現在在籍している化血研職員全員の双肩にかかると思っています。



藤川理事▼中計とかで十分述べているつもりですが、基本的に

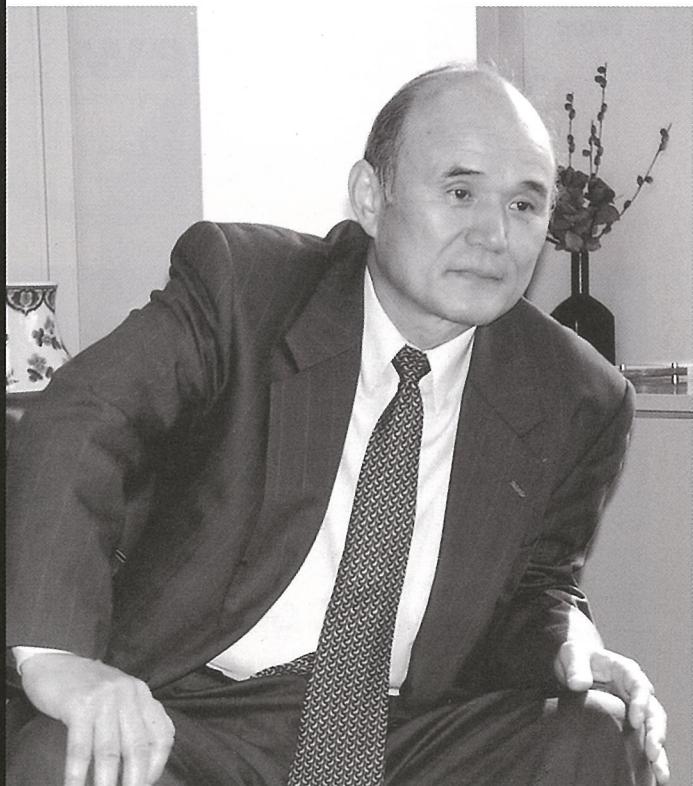
は動物も人間と同じように病気との闘いなんですね。一つの病気が終わればもう次がでてくるという事の繰り返しで、鶏、豚牛もまだまだ困っている感染症は沢山あります。

感染症の場合、病気の流行を防ぐためには、感染源及び感染経路を断つか、宿主に免疫を獲得させる等の方法がありますが、産業動物の場合、経済性が問われますから、ワクチン接種によって免疫を得得させる方法が最も安上がりなんですね。

動生剤部門は、先ずこれらの中が求めています。ただ、現在残っている未開発のワクチンは難しい問題を抱えているものばかりで大変ですがね。

また、先程も言いましたように、私共は主に産業動物を対象にしていますから、品質はもちろん、より安く、利便性の良いワクチンが望まれています。特にここ2~3年外資系の企業が低価格をキヤツチフレーズに市場に参入していますから、今後は品

## Executive Interview ●



藤川理事▼現在、化血研には1300人ほどの人がいるわけ

質と共に世界に通用する価格も念頭に開発しなければなりません。この数年が勝負だと思っていましたので、動生剤関係者全員で頑張りたいと思っています。幸い、若い人もこれまでの技術に新しい技術を取り入れる等、実力もついてきましたので、若い方に期待しているところです。

○…化血研の従業員は豊むじい世代。

自分は会社の歯車の一つにすぎない」というような人がいたんですね。しかし、歯車が一つでも狂えば機械は止まってしまうわけですし、会社も同じではないかと思います。仕事はそれぞれ大事なわけですから、大事な仕事をそれぞれの人が前向きに仕事をするという事が研究所全体の総合力を高めることに繋がると思っています。

わづ一つは、これは新人が配属されたときにも新人の連中に言つておる事なんですかね?「一日も早く自分は化血研でいう言う事をやり遂げたんだ」というような達成感のある仕事を先ずやり遂げろ、その事が自分だけの満足感でなくて、人も評価してくれるような、そういう仕事を先ずやり遂げろ」と言つています。それから、この事について自分が第一人者なんだ、この事に関しては誰にも負けないと、自分の身につけてもらいたいと言つています。この二つが身につけば自信というものが大きくなると思つんですね。その自信というものが更に自分を大きくして、仕事の範囲も広げる事ができると思うんです。そして、化血研ばかりでなく所外の人からも評価されるものになれば喜うる」とな感じと思つています。

以上の二つをよく新人が入つて来たときに言つております。最後に、立派な仕事をするには、健全な精神と肉体が必要だと思っています。言い尽くされている言葉ですが、やはり一番大事だと思っております。それから、何事にも誠実さをモットーに頑張りましょ。以上、あたりまえのことばかりですが従業員の皆さんにお願いしたいと思います。

文責・インタビュアー・写真●総務部 総務課 猶野輝彦

# Executive Interview

エグゼクティブ・インタビュー

理事 宮本 誠二



5月24日付で理事に就任された宮本理事にインタビューいたしました。

Q：化血研をどのよつの研究所にしたいですか？

宮本理事▼ひとことでいえば、「化血研の特性を生かした存在意義のある企業」ということです。化血研が得意とする特化した分野に集中して、この分野では世界の一流とし

て通用する集団になるということです。

世界の動きとして企業は巨大化していますが、化血研は小さな体でそうした巨大企業と相対していくかねばなりません。そのためには、特化した領域で化血研の特性を強みとして発揮していくことです。小回りがきき機動性が高いこと、総力を結集しやすいこと、組織というルールの範疇ではあるが自由度が高いこと等、大企業に勝るメリットを生かして、特化した領域では無視できない存在であること、更にはリードしていく存在を目指していきたいと思っています。

それは単なる夢の話ではなく、現実のこととして皆が一丸となつて頑張つていけばやつていけるし、その自信と誇りを持って、それに相応しい力をつけていかねばならないと思っています。しかし、その一方で、力を過信して調子に乗ると足元をすくわれて転んでしまうリスクも大きくなつていてと言えます。

化血研の一番の特性は、真面目であるということです。化血研は真面目な企業として信頼されています。この「眞面目で信頼できる」という化血研の本質を決して忘れることがない、世界に通用する力をつけていき、地味で真面目な

中堅企業の化血研が、社会になくてはならない存在感を持つ企業として存続していく」とが、我々の目指すところと考えます。

○…化血研の従業員に理おじせいか?

宮本理事▼まず第一には、「責任を持つて事に当る」ということです。「責任」という言葉は何事か起こった場合に「責任を取る」といふいふでも使われますが、そうした事後のネガティブイメージよりも、むしろ事を成すに当つて「責任を持つ」といふと、言い換えれば、自分が主役となつて成し遂げると、いう気概を持つたプラス志向で捉えるべき」とと思ひます。自分が責任を持つて行つたことであれば、万一それが思わぬ事態となつた場合には、潔く責任を取ることにも悔いはない

と思います。

化血研は、自分がやる気になれば、アクティブにやつていける恵まれた環境にあると思います。困難なことにぶつかった時も、それは自分の力を思う存分に發揮する良い機会だと捉えることができます。考え方抜き、それを実現していくことで、自分の中に潜んでいた思ひぬ力に自分でも驚くことがあるでしょ。

文責・インタビュー●いしがき編集委員会事務局



我々は科学者であり、企業人であり、社会人です。科学的な見識や探究心、有用なものを実用化し供給していく社会への貢献、そして他者への思いやりと愛情、こうしたこととが一体となつた行動が求められます。これらは相反することではなく、それぞれの要素が共鳴して高めあっていくことになります。

人にはそれぞれ個性があります。完璧な人もいないし、駄目なばかりの人もいません。そして、何から何まで自分と同じという人もいません。そうしたそれぞれの個性を持つた人達が集まつて、互いに強いところを伸ばし、弱いところを補完していくといふことで、集団としての強い力が発揮でき、世の中に貢献していくことができます。化血研という一つの集団の中で、各人および各部署が協力し合つていくことが重要なことと考えます。

化血研は、自分がやる気になれば、アクティブにやつていける恵まれた環境にあると思います。困難なことにぶつかった時も、それは自分の力を思う存分に發揮する良い機会だと捉えることができます。考え方抜き、それを実現していくことで、自分の中に潜んでいた思ひぬ力に自分でも驚くことがあるでしょ。



Executive Interview●

# Series 2

## 部長インタビュー

HIROSHI MIZOKAMI

試作研究部 部長

溝上寛

260 おひな語彙

いと考えています。

第一に「バイオ医薬品製造部門」を設立すること。これは、試作研究部の発足時に理事会の総意として理事長から示された目標であります。

ワクチンや血液製剤以外の分野にもその足場を広げる可能性を秘めており、化粧品の特色ある従来技術力と融合させて新たな得意分野の開拓につながればと田

の「美学」としての技術情報集を積出し、その技術を化研の他部門でも応用できる技術情報をとする使命が試作研究部にあると考えています。

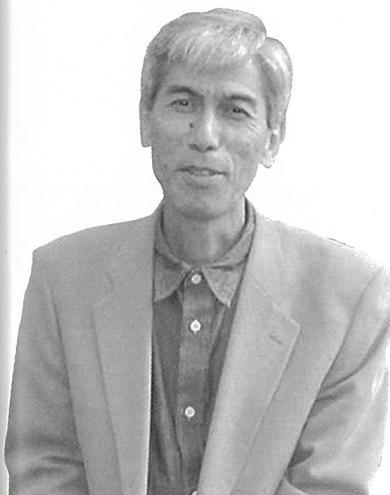
試作研究部では、現在酵母由来製品2品目、大腸菌由来製品2品目、細胞由来製品3品目の開発を進行中です。いまのところ化血研の収益に貢献しているものはビームゲンだけですが、これらの開発品ができるだけ早く上市し、組換えアルブミンを中心とした製造部門を立ち上げ、化血研を支える「第四の柱」にしていきたいと考えています。

試作研究部は国内外の医薬品企業と共同研究開発を多数行つており、この点からもこれから新たな化血研の医薬品業界での立場・地位を確立する種があるよう思います。現在行つている国内外企業との共同開発は「ビームダン」の開発成功がその種となり大きく育ってきたもので、化血研が非常に高い「バイオ技術」をもつてると国内外に知らしめるため

ただ、「バイオ医薬品」はいままで化血剤が行つてきたワクチンや血液製剤にないハードルがあり、また行政側からの種々の要求に適確に対応していくかなければならぬらう、その道は決して安いものではな

の大きな力になってきたと思います。現在開発しているテーマを成功させることによって、次なる新たな展開が生まれ更なる発展が望めるのではないかと考えています。

第二に、いわゆる文献に載らない部分





るとともに、担当専門部署として今以上に努力して、「歩進んだ実力を蓄えた職場として育てたいと考えています。

部署の方に「望む事は何ですか?」

試作研究部のメンバーには大き~い人のことを望んでいます。

1つ目は、試作研究部が化血研の将来に対して翼を担っているという誇りと責任を持つて仕事をしてほしい、ということです。」ことは私は常日頃から試作研究部のメンバーに伝えるよう努力して

論理が通用しないことも多々あり、この点を克服していく必要があると考えています。ただし、株式会社にはない財團法人としての強みもありますのでこの辺のバランスを取りながら、世界に通用する仕事を着実にこなしていくほしいと思います。

試作研究部が取組んでい

る「バイオ医薬品」の分野は、世界を相手にしなければなりません。これは逆に世界に向かって出て行くことができる」と意味しています。試作研究部のメンバーには自先の改良や向上だけにとらわれず、より大きな目標を持つて努力していただきたいと思います。

新製品開発においては「発明」は大切ですが、突出した発明だけではよい「商品」となり得ません。日本の工業製品の良さは高い信頼性と耐久性に支えられていると

思います。医薬品の開発世

界へ立ち向かうにも同様であつて、「完璧にチャレンジする若々しい氣概」と「着実に信用を得られる状態で業務

を行なうためには並大抵の努力では対応

できません。化血研は財團法人という立

場ですが、この共同開発では財團法人の

等にしかも信用を得られるよう努め

ています。

2つ目は、化血研及び社会の中での業務

を行なっているところの認識を常に持ちづけ

ていただきたいということです。新しい仕

事や責任のある仕事を担つているとい

うでも前だけを見ていることがあります。

しかし、私達が最先端の仕事やきちんと

した仕事ができるのはそれを支えてくれ

る人達、現在の化血研を支える仕事をし

ていただいている人達がいるからこそでき

ることであるという気持ちをもち、自分

たちがこれだけ大きな仕事ができる」と

に対しても他の人達に感謝する心を常に

持ちづけていただきたいと考えています。

人は「人でやさしい」とは限られています。

常に自分の立場を見据えて慢心しない

とは、安定的に発展しつづけるためにも

大切なことではないかと思ひます。

最後に、健康に気をつけて、支えてく

れる家族への感謝を忘れずに仕事に頑

張つていただきたいとおもいます。

イントビューー：研究管理課 村上智子

新製品開発においては「発明」は大切ですが、突出した発明だけではよい「商品」となり得ません。日本の工業製品の良さは高い信頼性と耐久性に支えられていると

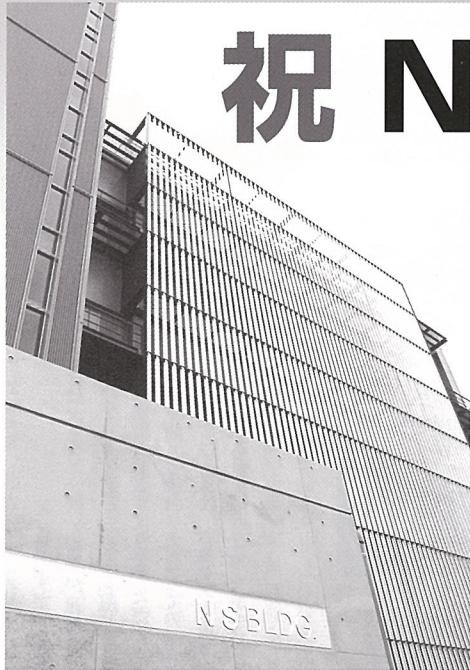
思います。医薬品の開発世

化血研の前身である実験医学研究所が解散した年です。また、インフルエンザが猛威を振るい、ワクチン製造棟(F棟)が竣工されるなど、社会から益々の躍進が期待されました。

2002

No.345(1月号)より

# 祝 NS棟 竣工



平成13年12月10日大安吉日。待望のNS棟が清水本所に竣工した。足掛け15ヶ月の歳月を要した新製造棟が、いよいよ新たに稼働する。



## 祝 竣工 NS棟新築工事



NS棟の定礎取付の模様。(定礎石の中にはその日の新聞と当時のお力ネを入れて封印するのか留わしなんですって。知ってました?)



- ① 作業者が気持ちよく作業できるよう快適さも追求
- ② 配慮
- ③ 機室・洗濯室など)についても機能性・利便性に
- ④ 機器付帯設備(CIP設備・洗浄室・待機室)
- ⑤ 生産情報管理システムの充実
- ⑥ 将来の新製品製造にも対応可能なように将来エリースペースを確保
- ⑦ 生産情報管理システムの充実
- ⑧ その他製造付帯設備(CIP設備・洗浄室・待機室・洗濯室など)についても機能性・利便性に
- ⑨ 作業者が気持ちよく作業できるよう快適さも追求

NS棟は当所の主力製剤である血液製剤の生産体制の充実を目指す事をその使命として誕生した。鉄骨4階建て(M2階・M3階を含めると正式には地上6階建て)、延べ床面積は約一万三千四百平方メートル。主な製造品目はボル関連(生体組織接着剤)やMC9・CP・APCなどの血液製剤である。既に一部の設備では試運転を開始しており、現在は3階の精製プラントを急ピッチで工事中、1階の分画プラントも設計が順調に進捗している。なお本稼働は一部を除いて、平成14年5月からとなる。

## NS棟の「ハセブト」は

- ① 製造区域のクリーン性などの面で医薬品製造品質管理基準(GMP)への対応を強化。
- ② 原料プラスマを保管するマイナス25℃の立体凍結自動倉庫(およそ現状の3倍量を保管可能)を併設
- ③ 分画プラントの処理能力アップ
- ④ 充填・小分け能力のアップ(充填ライン2ライン・凍乾機3台を新たに設置)
- ⑤ 精製プラント設備の拡充(製造室の専用化を図り、不活化前と不活化後のエリアを区切り、明確な区分けを実現)
- ⑥ 将来の新製品製造にも対応可能なように将来エリースペースを確保
- ⑦ 生産情報管理システムの充実
- ⑧ その他製造付帯設備(CIP設備・洗浄室・待機室・洗濯室など)についても機能性・利便性に
- ⑨ 作業者が気持ちよく作業できるよう快適さも追求

この他にも人物の動線や省エネ対策など、多岐に渡る細かな配慮とこだわり多くの人たちの情熱がそそぎ込まれている。構想は3年以上前に遡り、工期は約15ヶ月、投資額はおよそ75億円。実際に多くの関係者の英知が集結した結果、NS棟は医薬品工場の最先端を行く製造棟として誕生した。今後は血液製剤の将来を担う上で、核となる製造棟である。

12月10日に執り行われた竣工式では、朝からいに多くの空模様であったが、各界から多数のご来賓にお越し頂き、新製造棟竣工の祝辞を頂戴した。

日頃お世話になっている県健康福祉部の先生方を筆頭に、NS棟の設計・施工に携わっていただいた業者各位、化研関係者を含め総勢80名余りの関係者立会いのもと、厳かな中にも華やかな式典となつた。式典に先立ち、お披露目を兼ねて来賓各位にはNS棟をご見

学いただき、続く神事は展望のよい4階の記録室で執り行われた。神事は滞りなく進み、神酒挙戴では工事関係者全員が無事に竣工した喜びと感謝の念を胸に美酒を口に運んだ。次いで場所を厚生会館ふれあいに移し、竣工記念パーティーが行われた。内野所長か

らの関係各位へのお礼の言葉に始まり、行政機関を代表して県健康福祉部次長藤本先生に祝辞を頂戴した。また所から施工業者殿に感謝状と記念品の贈呈が行われ、本田副所長(「発声のもと乾杯」となった)。祝宴は終始和やかな雰囲気のなか、関係者の顔には満足いく仕事ができた充実感もあってか安堵の笑顔が見られた。祝宴は船津副所長の方歳三唱で幕を閉じた。

「…NS棟のスマートな稼働、そしてNS棟に」関係いたいたいた実にたくさんの方々の健康と益々の発展を祈願いたしまして!万歳!!」

(文責:生産技術部 生産技術課 沖村由紀)化研の新たな歴史を刻む棟の門出にふさわしい晴れやかな式典となつた。

## NS棟の主な機能

<b>4F</b>	●記録室・コンピューター室 ●将来スペース ●凍結自動倉庫
<b>3F</b>	●精製エリア(不活化前) ●精製エリア(不活化後) ●凍結自動倉庫
<b>M3F</b>	●CIP室・恒温室 ●洗濯室・会議室 ●凍結自動倉庫
<b>2F</b>	●充填・小分けエリア ●凍結自動倉庫
<b>M2F</b>	●S棟NS棟専用下足室 ●会議室 ●凍結自動倉庫
<b>1F</b>	●検査エリア ●分画エリア ●凍結自動倉庫

No.348(4月号)より

# 生物工学会論文賞 受賞報告



この度、中島敏博氏(1研-1主任部員)と、野崎周英室長(試作部・主任部員)が、  
2001年度の日本生物工学会の論文賞を受賞されました。  
受賞対象は、大阪大学との共同研究内容の一部を  
Journal of Bioscience and Bioengineering誌に報告された論文です。

Construction and Characterization of Phage Libraries Displaying Artificial Proteins with Random Sequences  
(Dept.Biotechnol,Grad.Sch.Eng.,Osaka Univ;Chemotherapy Res.Inst.;PRESTO,JST;Dept.Pure and Appl.Sci.,Univ.of Tokyo)  
Toshihiro Nakashima, Naoki Ishiguro, Muneyoshi Yamaguchi,  
Asao Yamauchi, Yasufumi Shima, Chikateru Nozaki, Itaru Urabe, and Tetsuya Yomo

賞状及び記念品の盾(写真)が贈呈されました。



なお、日本生物工学会は来年設立80周年を迎える醸造、発酵工学、バイオテクノロジーといった日本の生物工学、  
バイオテクノロジーを支える基幹学会の一つです。

今年で論文賞は第9回になり、日本生物工学会が発行するJournal of Bioscience and Bioengineering等に発表された論文を対象に、  
選考委員会にて候補24論文が選択され、そこから5題が投票により選択されたそうです。

同時に受賞されたのは以下の方々です。

第9回日本生物工学会論文賞

●本田 淳 氏 他(アベンティス ファーマー) ●酒井 康行 氏 他(東京大・生産技術研究所)

← ← ← ← ← いしがき編集員が行く → → → → →

## 化血研 東京事務所・営業所



地下鉄白金台駅がすぐ隣り。手前は目黒通り。後ろにそびえる煉瓦造りの建物は東大医科研。

化血研には出先機関がいくつかあります。阿蘇支所と配送センターは新人研修中に見学させていただきましたが、その他県外の営業所等は普段あまり馴染みもなく、どのような所か、想像もつかない…という方も多いと思います。という訳で、いしがき編集委員が実際に足を運び、取材してまいりました。第1弾は、化血研東京事務所・営業所です。

### メンバー紹介

○東京事務所=総務部東京業務課

尾本 誠良

那須・神代(宿泊班)

○東京営業所=第一営業部東京営業所  
古田 所長

中川(動物・獣医販売担当)・古田社

任部員(人体及び薬剤の管理薬剤師)・

高橋(病鑑)・小原(事務)・島根(配達)・

佐藤・村越(派遣社員)

○畜部顧問・家氏顧問(営業理事)らわせ

○総勢19名。



No.354(10月号)より

いしがき編集員が行く

# 自販の羅針盤として

今回は、(財)化血研 福岡営業所の紹介です。

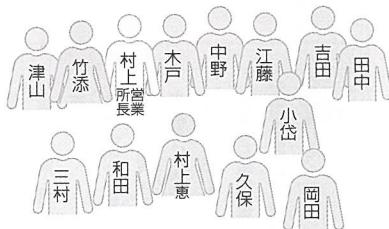


## 第一営業部福岡営業所 メンバー

村上営業所長

- ◎人体用ワクチングループ／津山・木戸
- ◎福岡地区担当／吉田・田中・久保・和田
- ◎北九州地区担当／小岱・江藤・三村
- ◎久留米・筑後地区担当／中野智・岡田
- ◎管理薬剤師・事務担当／竹添
- ◎事務担当／村上恵・中野里

(第一営業部ワクチン推進課／岡本)



1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005

← ← ← ← ← いしがき編集員が行く → → → → →

## 大阪営業所

第3弾は、大阪営業所です。

第2営業部 平井営業所長・高澤さん・中村さん・森さん、管理薬剤師伊藤さん・事務総括平山さんに取材とインタビューにご協力いただきました。



大阪営業所メンバー

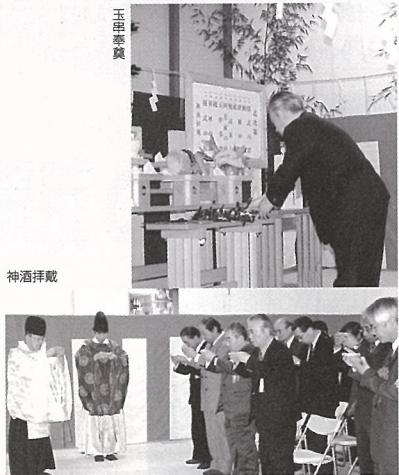


タイガースファンに改宗された御三方  
左から中村氏・高澤氏・森氏

伊藤さん・平山さん

新製造棟(F棟)竣工式 平成14年12月4日

インフルエンザワクチン  
増産・安定供給のために



神酒拌戴



A black and white photograph of a middle-aged man with dark hair, wearing a dark suit jacket, a light-colored shirt, and a patterned tie. He is smiling and looking towards the camera. To his left, a portion of a microphone stand and a decorative arrangement of flowers are visible.

F BLDG

F棟概要

# 化血研に新製造棟 インフルエンザワクチン

- ① 目的  
① インフレエンサワクチン増産への対応  
② GMP対応工場  
③ 生産設備の自動化・省力化による生産性向上

- ## 2、建築概要

- 化血研敷地内  
○構造 鉄骨造りインバウンド  
○延床面積 3,087m<sup>2</sup>  
○建築面積 1,135m<sup>2</sup>  
地上3階建

- ◎投資額 約2億円(建築万課併用、及  
3、スケジュール

- ◎ 延屋延詞

- 着工 平成14年3月  
竣工 平成14年11月末

- 4、各階機能

- 原料受入／洗浄・滅菌／精製 エリア  
（発育鶏卵受入、洗浄・滅菌作業及び感

- 理、不活化 等)

- ◎2階接種、培養、採液 エリア

- 3階原液調製／管理／拡張  
染漬尿液採取 等)

- (不活化原液の混合・保管、GMP管理文書、記録書作成・保管 等)

熊本日日新聞 平成14年12月10日火曜日 朝刊

化血研は九日、熊本大連の本所敷地内に建設していいた新しいインフレンザワクチン製造園が完成したと発表した。来年三月稼働予定でこれまでの生産能力はこれまでの約一・五倍に当たる約五百萬本(一本は二十九円)となる。

鉄骨造り三階建て、総床面積約三千平方㍍。洗浄や培養、原液エアリニアなどを設けた。投資額は約二十億円。

六十五歳以上の高齢者がインフルエンザの予防接種をする際、自治体が部費用を負担することなどを盛り込んだ改正予防接種法が今後施行、高齢者の伸びが見込めることがから建設に踏み切った。

同ワクチンの本年度出荷分の生産は既に終わっており、生産実績は前年度の二百三十八万本を33%上回る三百五十五万本に達した。

1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005

No.356(12月号)より



休憩室 まだ木の新しさが…

→ いしがき編集員が行く ←

## 長崎で生まれた子供さんの10人中7人—8人は

今回は、長崎出張所にお邪魔しました。



5階建てマンションの2階、1階は駐車場。



第一営業部長崎出張所 メンバー

尾藤出張所長(兼務)  
石下谷紀子  
林谷 哲雄  
尾崎 恒夫  
佐藤 環



2003

2003年

初荷進発式

# 来年度三百億突破の決意を込めて

2003年

1月6日(月)午前10時より、快晴の下で

本所玄関前にて新春恒例の「初荷進発式」が執り行われました。

内野所長により、本年及び来年度に向けた業績発展を祈念する挨拶で式は始まり、続いて内野所長、内倉常務理事によるテープカットに併せてシャンパンの栓が高らかに音をたてて宙を舞いました。その後内倉常務理事の売上増並びに来年度300億突破の決意を込めた乾杯の音頭により、九州産交運輸の初荷トラックは参列の皆様の祝福を受けシャンパンシャワーを浴びながら、ゆく

りと出発して行きました。

さて、本年もあと第4四半期を残すところとなりましたが、2002年度売上は第3四半期を終了した段階で計画比106%の234億円で推移しており、本年度末の275億円(売上高が予測されております)よりも280億円を超える(前年度実績は275億円)売上高が予測されております。これも分画製剤ではペコロ、ボルビール、アルブミンの主力製品の好調、人体用ワクチンではインフルエンザワクチン、Y-H-Bの増販、更に動物用ワクチンでは当初オイル7混の欠品等の問題もありましたが、鶏製剤、豚製剤共に好調を持続しております。

(営業管理部 営業企画課 川上泰蔵)

一方、2003年度は分画製剤ではアルブミンの増販、人体用ワクチンでは念願のフレルドシリソジ(日本脳炎、DPTワクチン)のスマートな市場展開、動物用ワクチンでは今年度上市したオイル6、7混の更なるシエ

ア拡大を狙つてはいるものの、適正使用、競合他社の攻勢、低価格化等化血研を取り巻く環境は益々厳しい年となりそうです。また、化血研内部では改正薬事法に伴う表示関連の変更対応、ERP本格稼動等が同時期であり、全く予断を許されない状況であります。本年もこの様に難題が山積しておりますが、営業部門は化血研全部門各々の努力の集大成であります売上実績をより大きなものとして実現すべく、営業担当理事を筆頭に全員丸となって挑戦し、最善を尽くす所存であります。どうぞ更なるご支援ご協力をお願い致します。



# 七十六年の歴史に幕

平成十五年二月十日に化血研発生母体、財團法人 実験医学研究所（以下…実研）の解散式が行われ七十六年に亘る歴史に幕が降りました。

解散式では、実研酒匂所長（代表清算人）が、大正十五年十一月三十日設立後、七十六年間の歴史、解散へ至る経緯をお話され、平成十四年九月四日に解散、十一月二十四日に清算が無事終了された」とを解説の辞で述べられました。

その後、内野所長、野中実研前所長が、「一つの法人が姿を消すこと是非常に残念ではあるが、その精神は、人々と化血研に引き継がれて、発展的解散と捉えたい旨」の挨拶がありました。

引き続き、杉本化血研常務理事の乾杯の発声。懇親会では、実医にゆかりのある出席の方々が思い出話を花を咲かせておられました。

（実医については化血研四十年史にも記載されています。）

文責：総務課 猪野 輝彦



解散の辞を述べられる  
酒匂実研所長



内野所長のご挨拶



野中実研前所長のご挨拶



清算のご指導をいただいた  
井上税理士



実験医学研究所 全景



杉本常務理事の乾杯での発声



平成15年1月10日(金)午前11時  
酒匂実研所長 新実研総務部長のお二人で  
看板がはずされました。



## 部長インタビュー

HIRONICHI MIZUNO

経理部 部長

「100の価値を  
150に増やす役割を」

どのような部署にしたいですか？

仕事は極めて稀です。スタッフ部門の使命は、現場の皆様が価値を創造し、生産性を向上するのを支援することです。経理部に支援してもらったから100しかなかったはずの価値が

150に増えたというような役割を果たすこと、言い換えれば、現場の皆様が本来の業務に専念し、その効率化を向上させるお手伝いをしたいと思っています。

績の把握

が可能に

なります。

ER Pとい

う道具によって、各部門間の重複し

た作業、管理間接的な作業を減らし、

経理部というのは全所的なスタッフ

の導入目的も同じです。ER Pは研

究開発部門や薬事部門は管理対象

外ですが、製造、生産管理、購買、営業部門等の活動はER P上で運動し、全てが経理システムに直結してリアル



もしないで、自ら価値を生むような部門です。スタッフ部門は製造も販売

現在、経理部門が事務局となつてER Pの導入を推進していますが、この導入目的も同じです。ER Pは研

究開発部門や薬事部門は管理対象

外ですが、製造、生産管理、購買、営業部門等の活動はER P上で運動し、

全てが経理システムに直結してリアル

タイムで経営成



本業に専念できる体制を構築したい

になります。

と考えておもや。

「管理」や「事務作業」そのものは価値を生みません。価値を生むための

管理や事務は必要ですが、価値の増大に貢献しないような管理や事務は

なくす努力をすることが生産性向上

第一は、どのよつなことにも戻込みをせず、チャレンジ精神を持つことです。

不安よりも未知のことから逃げてい

じておもす。正確な記述は忘れまし

たが「未知のこと」に足を踏み入れる

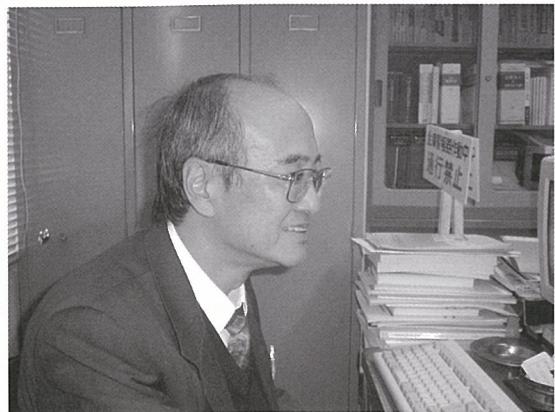
な気がします。

ビジネスペーパーに限らず、創造的に生

競争をする。戦後最大の不況から脱

出でないでいる日本を再生する鍵も、

この原点に立ち返る「ことにあるよべ



人間は未経験のことになりがちで、消極的になりがちですが、未経験のことにはチャレンジしながら人は成長しいあたのです。それは仕事の目的を履き違えて、「しばらく前に「チーズはどういうふうに行つた」という本がベストセラーになり、読まれた方も多いと思

います。ビジネス童話ません。そう考えれば、絶対に不正なところに分類仕事はできないのではなかっ

われるのですが、ビデオと努力で正々堂々と公正な

イハタムラ一

製陶部 製陶工課 団崎加奈子

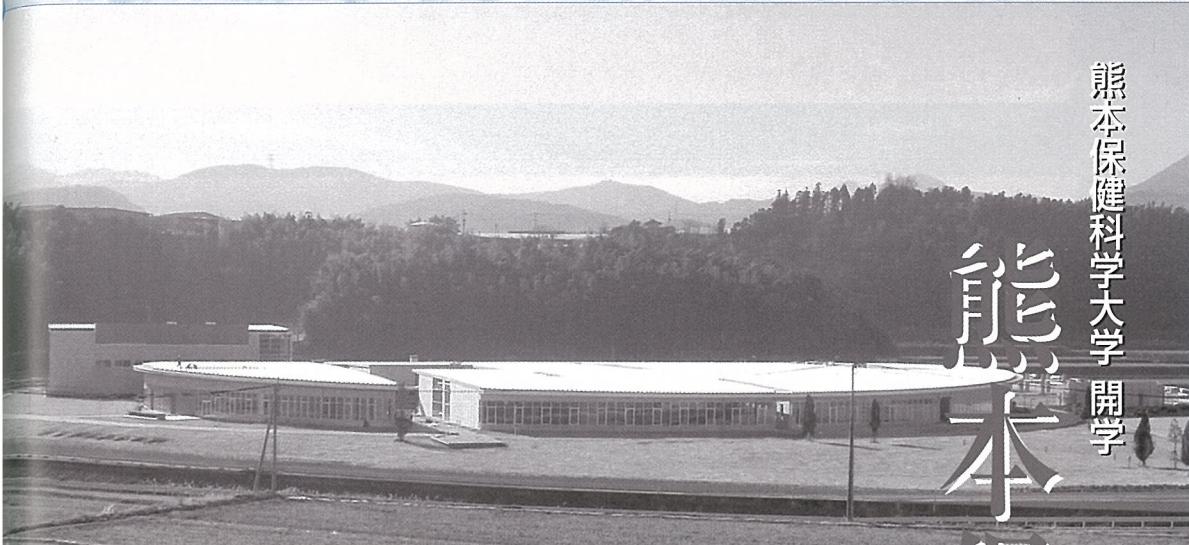


部長イハタムラ一郎が、今回じ  
終へじばつはす。4四加かの新たに始  
課紹介の掲載を企画つじむつはす。

熊本保健科学大学 開学

# 熊本保健科学大学 いよいよ誕生!!

2003年  
4月



大学全景

熊本保健科学大学設置認可が平成14年12月19日。新校舎の竣工式が平成15年1月14日。教育研究用機器備品の搬入が本格化し、新校舎への移転完了が3月9日。新校舎での業務開始が3月10日。3月14日には銀杏学園短期大学の卒業式をアリーナで挙行し、4月1日には招聘教職員を迎えて辞令交付が行われました。いよいよ熊本保健科学大学の新たな旅立ちの時期を迎えました。

本学は、1学部2学科で構成され、保健科学部に衛生技術学科(定員100名・臨床検査技師、衛生検査技師、食品衛生管理者資格取得)、看護学科(定員95名:看護師、保健師受験資格取得)を有しています。

入学試験は1月より4回にわたり実施され、両科合わせた入学定員195名に対し、志願者は985名を数え、259名が合格しました。少子化の時代、大学間競合も激化している中についでは、恵まれたスタートを切ることができました。

大学の経営安定を図るために、「一定規模以上の志願率、入学者の確保が絶対条件です。その為には、高

きるかが重要です。教職員の教育力の向上と、就職率の向上を目指した職域拡大への努力が求められます。

一方で、本学の経営母体が(財)化血研であるとの認識が徐々に定着しつつあります。(財)化血研の知識集約企業として、医薬品関連企業としての高評価は、志願状況に好影響を与えつつあります。

新校舎は直径132メートルの円形平屋建で、全面バリアフリーの設計です。文部科学省の実地調査、高校生対象のオープンガイダンスでも「こんな大学見たことない」と新鮮な驚きを持って受け止められました。教育機器備品も充実し、情報化・医療の高度化に応じた配備がなされています。ひとつ屋根の下で、教職員と学生が上下の関係でなく横の関係でつながります。円形のフォルムは、医療に従事する人としての優しさ、思いやりをシンボライズしております。百聞は見に如かず。機会がありましたら是非見学にお出掛けください。

文責・学校法人 銀杏学園事務局 橋本 寛



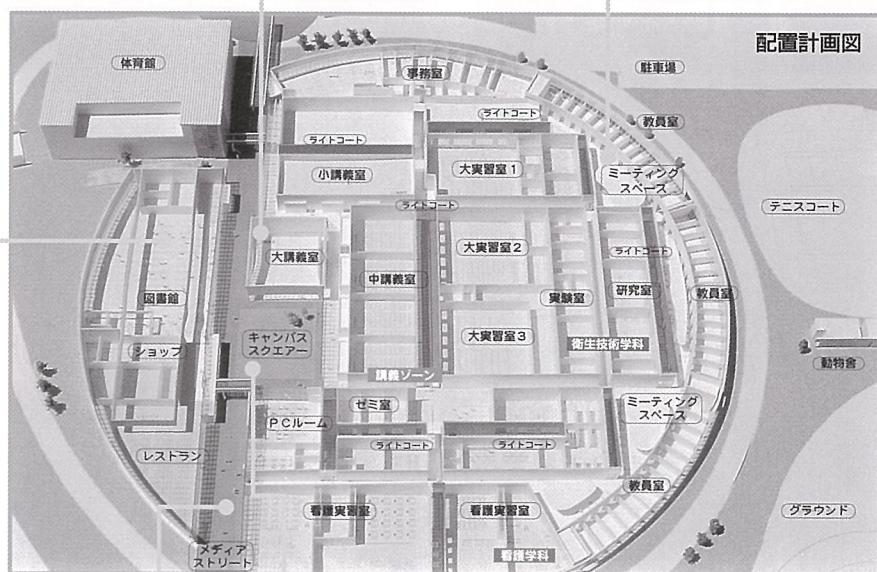
圖書館



L1 講義室



オープンミーティング



メディアストリート



DATA

【所在地】

熊本県熊本市和泉町字龜の甲325番地外78築

### 【学部・学科・定員】(予定)

- ◎保健科学部 衛生技術科 定員100名  
 ◎保健科学部 看護学科 定員 95名

【敷地構成】敷地面積／64.439m<sup>2</sup>

建物／校舎棟・図書レストラン棟・体育館他  
テニスコート／2面、グラウンド／250mトラック  
駐車場／300台、駐輪場／200台

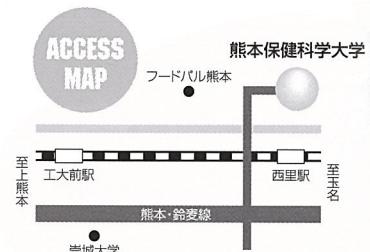
### 【建物構成】(予定)

- 本校舎棟／1階建 鉄骨造 9.584m<sup>2</sup>
  - 図書レストラン棟／1階建 鉄骨造 1.728m<sup>2</sup>
  - 体育館／2階建 鉄骨造 1.149m<sup>2</sup>
  - 動物舎／1階建 RC造

#### 【交通手段】

- ◎JR西里駅下車 徒歩5分  
◎熊本市街地より車で10分

<http://www.kumamoto-hsu.ac.jp>



TOPIC1

## 熊本保健科学大学

# イン賞を受賞しました!

キャンパス全景

JR西里駅よりキャンパスをのぞむ

図書館

から図書館をのぞむ

メディアストリートから図書館をのぞむ

エントランス

ISHIGAKI 12

No.366(10月号)より

施設紹介

## 阿蘇支所が 新しく生まれ変わります!



第一弾 届舎・堆肥舎完成

届舎全景

阿蘇支所が新しく生まれ変わろうとしています。

千葉承継に伴う抗毒素関連事業の一環として、新しい施設の建設が進められています。

各建物は今以上に管理され「国立公園内に立地している立地条件を活かし、

その景観を損なわない、自然に溶け込んだ建物づくり」をコンセプトに

各建物が変貌を遂げています。



ISHIGAKI

1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005

No.367(11月号)より

## TOPIC 2

## 熊本快適職場推進大会 会長賞受賞！

さる10月2日に平成15年度熊本県産業安全衛生大会・熊本快適職場推進大会が開催され、本所が熊本快適職場推進大会会長賞を受賞しました。

この賞は、企業の安全及び衛生管理活動、災害防止に特に功績のあった事業所や個人を表彰するもので熊本県労働災害防止団体連絡協議会で検討され、当所が推薦され受賞したものです。快適職場推進大会長には本所を含め三事業所が受賞しました。

その他、熊本県産業安全衛生大会長賞に35事業所などが受賞されました。

当所は、確かに休業業

## 表彰状

財団法人  
化学及清療法研究所

貴事業場は労使協力して  
快適職場の形成を積極的に  
進められその成果はまことに  
に顕著と認められます

平成十五年度熊本  
快適職場推進大会金に  
て表彰ます

本所安全衛生委員会



## TOPIC 3

## 所内報「いしがき」が グランプリ受賞！

熊日広報・社内報コンクールに所内報「いしがき」を応募したところ、グランプリ(熊日賞)に選ばれました。

昭和46年4月創刊以来、社内報コンクールには応募し、優秀賞などは度々受賞してきました。しかし、グランプリは初めての受賞です。諸先輩の皆様のご努力、従業員の皆様のご協力があり、その基礎があつたからこそ今回の受賞につながったものと思います。今後も、経営と従業員の皆さんの架け橋となる紙面づくりを目指していくたいと思っています。

これからも「いしがき」を宜しくお願いします。

## 熊日賞に「いしがき」

## 部外者にも読ませる内容



熊日広報・社内報コンクール

前列左から松田昌二編集長、  
村上智子編集員、後列左か  
ら阿部充樹編集員、奥野輝  
事務室長

化学及血清療法研究所

多くの所員がかかる  
多忙な職場環境作りを目  
指していきたいと思いま  
す。

本所安全衛生委員会

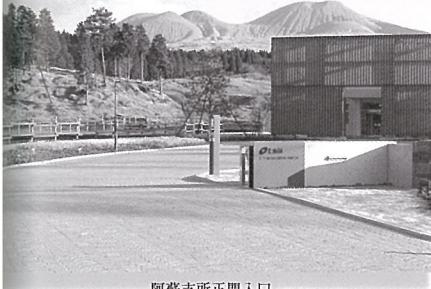
平成15年10月23日 木曜日 熊本日日新聞

2004

この年7月に第9代所長に船津前副所長が就任しました。新生阿蘇支所がスタートし、KR工場やLC棟、NR棟の建設へ向けて新たなるスタートの年でした。



厩舎(馬の飼育)



阿蘇支所正門入口



修祓

## 新生阿蘇支所！国民の負託に応えていくために

阿蘇支所増改築工事の竣工式

平成15年3月24日より進めてきた阿蘇支所増改築工事（国庫補助金事業工事、支所内整備工事）は、関係者の方々のご協力を得て、無事に11月28日完成引渡しを終えました。ここに至るまでの皆様のご努力に、心から敬意を表させていただきます。そして、12月12日には阿蘇支所敷地内で、支所近隣の区長様、厚生労働省、熊本県をはじめ

阿蘇町関係者の方々の参列をいただき、総勢88名のもとで竣工式の神事を無事執り行いました。当日は、みぞれ混じりで大変冷え込みましたが、参列の皆様から暖かいお言葉をいただき心から感謝しております。

さて今回の工事は、設計コンセプトを「雄大な阿蘇の自然環境との調和」をテーマとし、厩舎を含めた建物が周辺環境に溶け込んだ牧歌的雰囲気と、医薬品製造工場として、シンプルで清潔感のある外観を中心としました。これにより阿蘇支所のイメージは大きく変貌し、新しく生まれ変わった印象があります。

1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005

No.370(2月号)より

◆阿蘇支所増改築工事の竣工式◆

懇親会



神事



常務理事・副所長  
船津昭信



理事長・所長  
内野玲自

常務理事  
田代 昭

厚生労働省 医薬食品局 血液対策課長  
金井雅利

【工事概要】  
●工事名…阿蘇支所増改築工事  
●工期…平成15年3月24日～平成15年11月28日  
●工事期間

- 【国庫補助金事業工事】
- ①木造平屋建 延床面積 924 m<sup>2</sup>
  - ②T棟 鉄骨平屋建 延床面積 954.23 m<sup>2</sup>
  - ③M棟 製造管理棟 鉄骨平屋建 延床面積 954.23 m<sup>2</sup>
  - ④排水処理施設 支所内の排水処理 鉄筋コンクリート造 延床面積 48.16 m<sup>2</sup>
  - ⑤インフラ工事 (GMP)ゾーンの電気・排水管理設
  - 【支所内整備工事】
  - ⑥C棟 (SPE)動物関連施設 鉄骨平屋建 延床面積 333.51 m<sup>2</sup>
  - ⑦C6棟 (SPE)動物関連施設 鉄骨平屋建 延床面積 62.40 m<sup>2</sup>
  - ⑧景観工事・外構工事 埋設工事等)

心機一転した環境の下で、阿蘇支所が従来から  
のSPEゾーンでの動物生産に加え、国有品ワクチ  
ン等の供給に寄与し、国民の負託に応えていくこ  
とを祈つてやみません。  
ぜひ近くにお出かけの折りには、どうぞ一度そ  
の変貌ぶりをご覧下さい。

文責・資材課 続 雄一郎

No.372(4月号)より

# 存在感のある企業でありたい

所長 内野 紖自

## 所長が考える化血研の現状分析を聞かせてください。

まず、美容・業績ともに素晴らしい成長を遂げてき、企業としての社会的責任を果たしていくようにならなければなりません。かつて、日本が文明国になろうとしている時に、産業は何が一番かを当時の企業人は考えた。その一角に例えれば石炭鉱山があつた。石炭鉱山業が日本の発展に大きく貢献したことには間違いありませんが、その陰で搾取に泣いた人が沢山いる。環境の変遷と云うことはあるにせよ、そういう企業は今全部姿を消している。しかし例外的に日立製作所がある。日

立鉱山は、その在り様はいかがなものかと素早く転換の機会をとらえた。全部とされた企業であっても、その時点では貢献したものであります。でも最終的にはちゃんとした企業体質が整つて来た企業に現存があります。だから化血研もこのことを心にして、未来の繁栄のため全職員が心を砕いて頑張らねばならないと思います。喜ばしいことに化血研は世間にお役に立てる企業に成長して来ていると思ってます。去年十一月には日本経済団体連合会(日本経団連)の会員企業にもな



① ISHIGAKI

りました。化血研が世の中で存在意義のある企業になることが私の積年の夢です。

「化血研は何をしている企業なのか?」

と言われる時は寂しい。れっきとした、こ

ういう仕事をしていますと知らしめた

い。化血研は、閉鎖的な企業ではありませんから、物を作っている様子を見ていた

だけ見学コースも作っております。そ

やて世の中の皆さんと仲良く交わらな

ければ認めはざな。本当に認識さ

れるには知つても知らないといけない。人

間は人では生活できません。集団の中で

物の価値を達成していかねばと思います。

ただ順調に来ている今だからこそ何

かあるんだと思って、企業は必ずしも

儲かる企業ではないのです。

せん。適正な利益をあげる企業は世の中

に貢献できる仕事をしている。適正な利

益をあげて、その次に適正な開発を行っ

ている。

ただ、どういう企業が番かというと、

自然体で収益を出せる企業であること、

生産性の高い利益の出せる体質の企業

が理想です。しかし、利益を出す為に会

社は何かを犠牲にしてはいけません。自

然に利益が出来ること、それが望ましい

企業の姿なんですね。ただ、過渡期には

犠牲の上に乘っかっていくかもしれない。

それでも企業の終局の目標は、自然に業

物の価値を達成していくかねばと思います。

ただ順調に来ている今だからこそ何

かあるんだと思って、企業は必ずしも

儲かる企業ではないのです。

ところで、化血研の本業とは何でしょ

う。有効で、安全性に富んだ高品質の製

品を開拓して世の中に供給する

ことです。勿論、副次的に「おしゃべり」生

懸命やらなければならない。本業を生

業とするためには、この組織は自分に何

を求めるのだから

か、そして、何をしな

ければいけないか。そ

れをじと考えるが、

従業員のモットーでは

ないでしょうか。そ

うすると目的意識がハッ

キリしてくる。無理を

ISHIGAKI ②

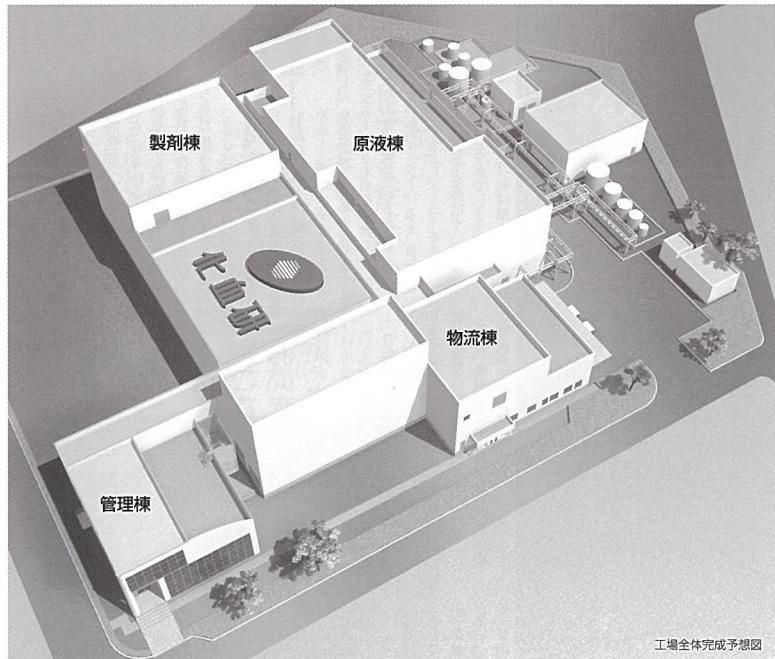


## 組換えアルブミン工場起工式

## 化血研の歴史の中で重大な節目となる施設

～高品質の医薬品を低成本で開発・供給を～

試作研究部製造技術課 宮津嘉信・伊津野照雄



工場全体完成予想図

化血研では、平成14年よりFDAのGMPに対応したクリーン且つ高効率コンパクトな21世紀型工場を設計しましたが、平成16年4月23日(金)、菊池研究所構内の建設予定地(CLP棟隣のグランド)においてKR工場の起工式が挙行されました。

当日は、早朝に小雨がぱつぱつ関係者をやきもきさせましたが、式典の開始前には雲がない清々しい青空となり、化血研のバイオ医薬製造拠点の実現に向けて、記念すべき第1歩を踏み出す日となりました。

式典には化血研関係者並びに熊本県・旭志村・石川島播磨重工など50名余りの参加者のほか、地鎮の儀、玉串奉奠などが行われ、工事の安全と無事成就を祈願しました。

その後の直らいで、内野所長から「この施設は、化血研の歴史の中でも重大な節目となる施設で、期待が膨らんでいます。化血研は世の中に存在感のある企業でありたいと願つており、高品質の医薬品を低成本で開発・供給のスタンスはこれからも変わることなく大切にしてこの機会に「層の努力をして行きたい」と挨拶がありました。

また、来賓を代表して、熊本県健

康福祉部の尾方次長より「FDA対応のKR工場において組換えアルブミンが製造されることは、安全で高品質な医薬品の国内自給に向けた大きな前進であり、組換えアルブミンが21世紀における新たな血液製剤になるよう期待しています」と祝辞を頂きました。

倍の投与量になります。従って、組換えアルブミンを事業化するには、組換え医薬品としては最高レベルの生産性と高純度の達成という、相反する課題の同時克服という究極の生産技術が要求されます。化血研では、1999年にデルタ社より酵母を宿主と

No.377(9月号)より

◀◀◀◀◀ レポート 1 ▶▶▶▶▶

## LC棟安全祈願祭

熊本では連日真夏日が続くなが、GMP対応施設として、平成18年から敷地に新築され、現在建設中の新工場にて、加藤神社湯田神社主祭神井禪宜先生の下、工事請負業者による地鎮式が執り行なわれました。

参列した約50名が見守るなか、船津所長内閣官房理事官佐藤本成俊氏より講話にて製造工場の建設が行なわれる予定です。また、米国向け大量生産に対応し、症候群の高濃度無菌性への要求に答える最新規の設備を備えています。

文責 生産技術部長付 安本篤史

熊本では連日真夏日が続くなが、GMP対応施設として、平成18年から敷地に新築され、現在建設中の新工場にて、加藤神社湯田神社主祭神井禪宜先生の下、工事請負業者による地鎮式が執り行なわれました。

参列した約50名が見守るなか、船津所長内閣官房理事官佐藤本成俊氏より講話にて製造工場の建設が行なわれる予定です。また、米国向け大量生産に対応し、症候群の高濃度無菌性への要求に答える最新規の設備を備えています。

文責 生産技術部長付 安本篤史

No.374(6月号)より



的とした原液棟・物流棟を建設し、今後約10年をかけ工場を拡張していく計画で、三期までの総工費は100億円以上になります。最終的な生産能力は、12.5グラム入り製剤換算で年間100万本(アルブミン蛋白量として12.5トン)となり、組換え医薬品の工場としては国内最大級になる計画です。第一期工事の規模は鉄骨造り、地下1階地上3階建て(延べ床面積約7000m<sup>2</sup>)で、来年9月末の完成予定です。

ビト血漿由来のアルブミン製剤は、出血性ショックや肝硬変、火傷の治療に広く使用されていますが、その投与量はグラム単位(数十グラム)です。化血研では、1988年から組換えB型肝炎ワクチン「Z-ベゲン」を製造していますが、「」の投与量がマイクログラム単位ですので、これに匹敵すると百万

当量輸入に頼っているのが実情で、厚生労働省としては輸入に頼らないアルブミンの自給体制の実現に向けての施策を展開しています。組換えアルブミンの上市が実現すれば国内自給体制の推進に貢献出来る」とことなり、社会的貢献度の高い事業と言えます。

組換えアルブミンの開発は今回の起工式で大きな節目を迎えたが、これからが正念場です。組換えアルブミンの生産に向けて飽くなき挑戦を続けていきたいと思います。

最後に、6月初めから本格的な工事が始まり、菊池研究所の皆様には騒音や振動などの迷惑をお掛けしてしまいますが、ご理解と協力の程を宜しくお願い致します。

以上

ISHIGAKI

No.378(10月号)より

# 船津所長に聞く

## 世界で通用する研究所に。

### 所長としての抱負をお聞かせ下さい。

今後の時代は、世界に通用する打つて出られる製品が二つないと、次のもう一つ上の段階は迎えられないというところにきたと思つています。

これは、化血研が日本でしっかりと頑張つてやつてゆけるかどうかの課題と同じ事だと思います。我々はこの「生物的製剤」の分野で頑張りたいと思っています。その意味では、今は、活気いたワクチン市場は期待しているところです。ます人用ワクチン分野について、過去、日本の技術は良いと言われてきましたが、現実としては、輸出はまだ十分でない状況。当所でもD.P.T.、Y.H.Bなどありますが、全体の比率からすれば少ないです。ワクチンの輸出入は認められれば自由なのですが、日本

から世界に通用するのはなかなか少くない。海外からのワクチンも特徴がないまま同様です。現在、化血研はメルク社のMMR-IIを日本に導入しました。やはりこれが非常に難しい。

日本との審査の差異が絡んでる為です。海外の大手ワクチンメーカーのメルク、グラクソ・スミスクライン、アバンティス・パスツール社などは、

日本の市場に大きな関心をもって参入努力中ですが、門は開いているがなかなか難しい。

その意味では、国内に使用されているワクチンはほとんど国内メーカーが主体です。しかし国際交流が盛んになり感染症も国際化してまいりました。日本にないワクチンもしあな。

の中の製造体制はもとよりQA、QC体制をFDA/GMPに対応した製剤を開発すること。そのための組織になればなりません。この様に世界に通用する為には、FDA／WHO／GMPの基準に合致する設備、品質保証が必要があります。ここで作られる輸出できる商品を複数達成することが、数年の期待だし、やり遂げたいと、皆さんの大変な支援を受けています。(笑)

新規バイオテクノロジーを取り入れた製剤を幾つか出すこと。そのための設備と品質管理。それをこなせるだけの能力ある人間を育てる。それが僕の抱負だよね。

昔の化血研は、皆研究開発をしていた。製造も開発も皆一緒に開発などチャレンジできる化血研にして、大変だけど、この研究開発ができる環境にして、財團としての役割が果たせます。

どのような研究所にしたいか、それ

は、海外のコンビンワクチンなど日本市場に向けての環境づくりが目的になります。動物用ワクチンは5～6年前に基準がかなりグローバル化されています。

前に進んでいます。



ISHIGAKI ②

No.378(10月号)より



No.378(10月号)より

ISHIGAKI ①

からですか？そうは思っていませんでした。論、低かった訳ではない。理由は簡単でなかなか難しいです。この環境が非常に良かった訳でも、

従業員に望むことは何ですか

されていませんが、これらが、日本の製薬市場の簡単な状況です。よくエンドサフワード・チャーチンの需要が増え、最近はワクチンの需要が高まっています。その様な中で、LCA株の痘瘡チーンの承継を得て、これを海外に輸出するタイミングを探る所です。メーカーによる競争はなるかと思われます。何とか米国含むFDAの認可を世界に持っていく、その為には、化

組織培养を充実させ、インフルエンザウイルスの組織培養化を5—10年後は実現した。全部成功するとは思はないが、何がつかつかつか今後10年展望はばかりでない。

そうすることによって化研の水準が上がりつつある。上がったから利益があることは限りませんよ。コストも掛かってしまう。だから、きちんと採算性がどっちで何回問題にかかるだけない。何回繰り返しますが、海外に出せるよう

ガーディーラインや世の中の水準などなんてすぐ変わるものかね。錠剤とか抗生物質は芽り出したときから余り変わらないが、「生体由来」についての基準を定めることは変わってくる。それは、未知の心配があるし、現在の水準含みでいる心配があるからだ。

たなまきだい。  
今、バブル後の日本の経済は不調  
けれども、アメリカにしつゝ、その他  
国に匹敵するような大きな国な  
日本で作り、世界で通用するコスト  
品質にしていく。5～10年の展望で  
れば、それが勝負にならうと思って  
います。そういう状況に対応できる  
今から準備しておく、抱負など、どう  
う研究所にしてはどういうのは総じて  
ことか。是非皆さん方にも考えて  
いただきたい。

てね。それも楽しみかな。「ゴルフは月  
2ヶ月回したいたいと思ってます。  
若い頃から、「趣味は仕事」とな  
どなく、言い訳が続いてきたんだよね。  
もう仕事が趣味なんて憚りますよね。  
でも本音は言うのもいやなのですが。  
かもしません。

るところは思ひません。  
では次の時代と同じように  
と言わざるほどの次の大問題として  
の力をつけて欲しい。何  
今日日本にあるかとお互い  
ながら、上手に皆に理解し

うに来るが、  
対処するだ  
故献血研が  
に話し合い  
て欲し。  
2／3回した  
となく言い訳が  
もう仕事が趣味なんだと憚りますよ  
でも本音は言のひもやなのですが、  
かましません。



③ ISHIGAKI

2005

創立60周年を迎えるこの年は、ハード面、ソフト面とともに充実してまいりました。これからも財団法人 化学及血清療法研究所は70周年に向けて更なる邁進をして参ります。



平成十七年新年挨拶式 所長 年頭の辞

# 自分が最後の砦だという 強い使命感を持つて

平成十七年一月四日 本所厚生会館 菊池研厚生会館

新年おめでとうございます。

年が変わって平成17年(2005年)、皆様におかれましてはいかがでしたでしょうか?

御家族そろって佳い春をお迎えになつたことと思っております。

さて、私は昨年7月に理事長・所長に就任しましたが、在任中に取り組むべき重要課題として思いますことは、

- ①現在進めている大型プロジェクトを確実に進捗させること。
- ②逆風にも耐えられるよう高度の専門技術力のある企業体质を強化すること。
- ③化血研の創業の理念に「使命感を持つ」次代の化血研を担う人材(幹部)が育つ環境をつくること

などとthoughtしております。

そのために目指す所として、若干抽象的になりますが、基本的なベイスとしては、何のために化血研で働き、頑張るかという根底にある気持ちの「持ち方・考え方」と、それらに支えられた実学的サイエンスが重要と考えています。このことを踏まえて以下の3つを掲げたいと思います。

- ①チャレンジ、世界と戦える高い技術集団になる。
- 国内シェア30%を確保しながら、将来的には、海外売上高比率10%(30億円)が目標です。

No.381(1月号)より



力がいると思っています。特にバイオなど最先端技術の研究開発に努め、世界に通用する魅力あふれる製品・技術を提供していく様子に、選択と集中（経営資源「人・物・金」の最適配分）を常に見直し、考えましょう。

ぱなりません。その過程で生ずる問題点を当事者として解決する意思を持った「強い現場」が必要と思っています。常にインベーションを追求し、「生懸命知恵を絞り改善に取り組んで下さる」。

平成17年度全所重点必達課題】  
1、大型開発テーマの計画通りの確  
実な進捗

成 果 分 配 の 横 搾 検 評 開 始  
 8、目標管理運用の着実化と実処遇  
 　への展開、従業員のモチベーション向上策  
 9、関連法規（GLP、GCP、GMP、  
 　GVP等）企業関連法令、倫理綱領  
 　の遵守、個人情報保護法への対応  
 10、改正薬事法と血液新法への適切  
 　な対応の継続

思っています。  
今年は12月に創業60周年を迎えます。  
未達課題を確実にクリアできるよう日々の業務の取り組みを期待して本年度の全所重点必達課題を次の10項目とします。

300億円以上の達成  
(痘瘡6・5億円含む)

張っていきましょう。  
ここに新年を迎える全職員が健康で充  
実した年でありますよう祈念しそれぞ  
れの御家族の皆様に「今年もどうぞよろ  
しくお願ひ致します」を申し上げ、新年  
の御挨拶と致します。

〔平成17年度全所重点必達課題〕

成果配分の連携検討開始

- 【平成17年度 全所重点必達課題】**

  1. 大型開発テーマの計画通りの確実な進捗
  2. 既存品の改良・適応拡大、添加剤削減・削除、シリジ化、混合化等による差別化特にボルヒール改良、ベニロン適応拡大、チメロフリーア化、DPT／IPV
  3. 世界に通用する製品作り～F D Aライセンス取得
  4. 新工場のスマート化立ち上げと稼働～竣工予定：LC棟5月K R工場9月、NR棟10月
  5. 山之内・藤沢合併への適切な対応、拡販・シェア向上による売上高300億円以上の達成（痘瘡6・5億円含む）
  6. 更なる安全性・有効性の確保品質管理・品質保証体制の強化
  7. E R P効率的活用、棚卸削減、原価管理強化、キャッシュフローと

8. 目標管理運用の定着化と実処遇への展開、従業員のモチベーション向上策

9. 関連法規（GLP、GCP、GMP、GVP等）企業関連法令、倫理綱領の遵守、個人情報保護法への対応

10. 改正薬事法と血液新法への適切な対応の継続

成果配分の連携検討開始

あります。各部各課にあつてはそれぞれの業務計画と共に、「自分が最後の砦だ」という強い使命感を持つて、必達されたいと思います。

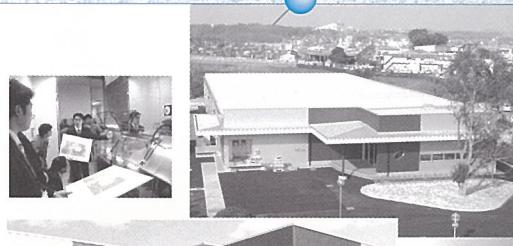
現状にあつて化血研の業績は全体としてはほぼ順調に見えますが、それはインフルエンザワクチンと痘瘡ワクチンに限った話と言つても過言ではありません。企業環境は常に変わつてきます。この2つに過剰に頼らなくても業績をあげられるよう、考えに考えて行動し、元気に頑張つていきましょう。

ここに新年を迎え全職員が健康で充実した年でありますように祈念しそれぞれの御家族の皆様に「今年もどうぞよろしくお願い致します」を申し上げ、新年の御挨拶と致します。

No.384(4月号)より

L.G.標準工式

# 2006年の生産開始を目指して



平成17年3月31日に、複数新製造棟ある  
L.G.棟の竣工式が執り行われました。  
昨年8月20日に安全衛生監査を行まして、  
竣工まで約8ヶ月と、短工期ながら無事  
故無発生にて竣工の運びとなりました。  
L.G.棟は建築面積約8,000m<sup>2</sup>、平屋建て、  
国・G・N・I・連合の新製造工場としており  
て、2006年の生産開始を目指しております。

まだ余さぬついたが、抜群の空の下  
で、来賓の工事事務係者とともに、竣工の祝びを  
分かち合いました。工事中は不便をかけられました皆様  
（2）協力に感謝するともに、今後のバーチー  
シジ、立ち上げ業務など「プロミネンスメイバー」  
全員で邁進していく次第であります。

文責 生産技術部長付 安本 鶴史



ISHIGAKI ⑥

## 私の自動化の思い出

製剤部部長付 高橋 一博



ISHIGAKI ⑦



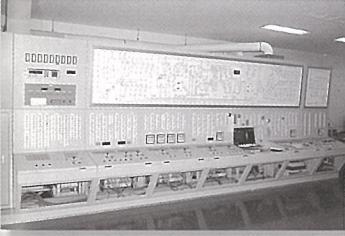
①昭和58年頃の化血研(K棟も見える)

### 航空写真を眺めて

建物の航空写真1は昭和58年頃の化血研  
の航空写真です。一方写真2は平成17  
年現在の航空写真です。この2枚の写  
真をながめていると私が入所した昭



平成17年5月



②S棟Gプラントの制御盤(リレー回路が主流の時代)

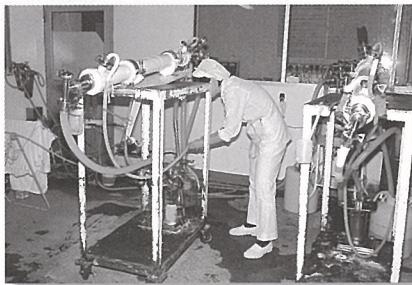
までは、S棟完成後もその横のグラ  
ンドでは毎年運動会が行われていま  
した。(写真4)その後昭和58年に本  
館でUF水(イオン交換+UF)のパイ  
ライン供給写真5)が開始され、そ  
れまでの乳缶(写真6)による運搬は  
姿を消しました。当時の製造では写  
真7)に見られるように、M棟の純水  
室から運ばれた水を用いて、バッチでの  
濃縮処理などを行っていました。サニ  
タリー配管の自動溶接が初めて化血  
研にお目見えした時期です。それま  
では本館各ウイングへの製造用水の供  
給はM棟純水室より台車による運搬

が主でした。その後、水道管の供給が実現

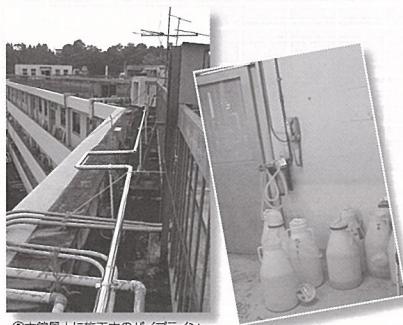
No.389(11月号)より



④体操で始まっていた大運動会【右は動物舎（現存）、左はS棟】



⑤PAN(パン)と呼ばれていた濃縮用の限外過濾



⑥平成17年5月の化血研



の記憶をもとに写真1から写真2へ  
移行していく過程での思い出を綴  
てみたいと思います。写真1の頃のい  
わゆる「プラント」はB・E棟血液製剤  
プラントをベースとして本格的な自動  
化が導入されたS棟のみでした。写  
真3は当時のS棟Gプラントの制御  
盤です。今や懐かしい思い出のひと

昭和62年には写真1の旧K棟の包装  
室にて、それまで單体機械配置で作  
業を行っていた人体、動物、分画包装  
が3つにライン化（写真8）され、現在  
のR棟包装ラインの原型が作られ  
ました。（R棟の充填・包装ラインで  
はコスト削減のため新設のみでなく、  
K棟・T棟さらに菊池から移設も行  
われました。）

昭和2年化血研初めての自動倉庫が  
S棟南側の旧資材倉庫を自動化す  
る改造工事で実現しました。この最  
初の倉庫の自動化を皮切りに、その  
後平成2～3年の京町移転の際には  
京町の動物製造設備の一部はG棟K  
プラント（動物の培養タンクに集約  
されました。また京町にあった「発送  
センター」が菊池に移転され、平成4  
年に「配達センター」が出荷可否のイ  
ンターロックシステムで電算室のホスト  
コンピュータと連動する形で建設され、  
やはり1999年のR棟建設では、  
GMP対応の自動資材倉庫がワンパ  
ッククリーナ（ダンボールの外装を除塵、  
消毒する装置）の導入と共に実現し  
ました。）のとき同時に国家検定用  
自動倉庫（室温用と冷蔵用）が建設  
され、それまでの冷房内検定品関連  
作業はなくなり、検定品倉庫の施錠  
管理となりました。またAGV（Auto  
matic Guided Vehicle：無人搬送  
車）も導入されました。その後N・S棟  
建設、そしてNR棟建設へと進み、写



⑦旧K棟の包装ライン（昭和62年に初めてライン化されました）

この間の変遷を技術的な観点から箇  
条書きしてみますと

### その間の技術的変貌

2. SIEの普及（

2. ファームスター技術の向上（最初の  
ファームスターは本館2階センターの  
L-S1設備、次がBWの百クファ  
ームスター）

3. 倉庫の自動化、AGV導入（シャッ  
ス・ラインTimeからジャスト・Dayへ  
発想転換、内段取りの外段取り化）

のGMP遵守の時代からFDAを根  
野にした現在までのレギュレーションの  
変遷が大きなハイライトを持つという  
実感と同時に、プラント設計・施工技  
術・自動化技術のレベルの向上が25年  
の間に相当に進化したものだと感じ  
ます。

レポート  
インターンシップ2005  
夏開催

# 過去最多19名が挑戦



夏期休暇明けの化血研(八月下旬)九月中旬)――二十名ほどの学生達が滞在していたことに気付かれたでしようか?彼らは理工系大学の三年生(一部は院生)。インターンとして二週間から三週間の職業体験にチャレンジしていました。大学三年の夏休みといえば、バイトに精を出し、貯めたお金で旅行でもしたいところ。なのに、彼らは一生の仕事を選ぶ大事な機会として、大学を通じ様々な会社に申し込みを行い、マッチングの成立した企業にせっせと通ってきます。皆さんもスーパーや書店のレジで「実習生」のカードを胸に付けた、初々しい店員さんを目にす

ることがあるでしょう。)

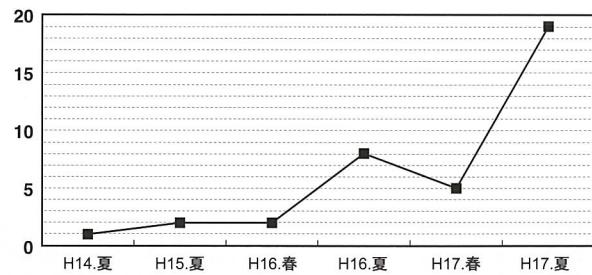
当所のプログラムは、実務を担当させるよりも、主として、簡単な模擬実験や品質試験等を体験させるもの。限られた時間、慣れない実験手技、当然失敗もあります。インストラクターは、つかず離れず適切な指導をして頂き、「一定の成果につながるよう見守ります。

毎日の研修日誌や総括レポートをまとめるのも大変。大学での研究室配属前の彼らですが、「サイエンスの匂いが漂つてはいる」という程度のものが多いのですが、中には二十枚程度の(まるで化血研所報「黎明」の論文を思わせる)ものもあります。

その学生によくよく聞いてみたら、実習終了後もインストラクターとメールでやり取りし、何度も添削を受けつつ完成させたとのこと。「他の企業では、絶対に受けられない経験。今後の研究室選び、卒論作成にも大きな影響を受けました。」あるインターンの達成感に満ちたコメントです。他にも、「医薬品という生命や健康に深くつながる仕事を関わることの重さ」、「正確さ、スピード、チームプレイ、理論と経験をフル活用したデータの読みの深さ。漠然と科学・技術の仕事につきたいと思っていたましたが、「職業」として科

【インターンシップ】は、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う制度」背景には若者の早期退社、フリーターやニートの増大がある。さらに近年、独立行政法人化した大学側が力を入れ始めた。企業以外に役所での受入もある。文部科学省の推奨もあり

## インターンシップ経験者の推移



学を追及することの深遠さに触れる日々でした。」など、本質を捉えたコメントが返っていました。

度入所内定者を含め、インターン経験者が、今後の新卒採用において大きな影響力を占める事はほぼ間違いないありません。

## 「職業としての科学」にふれた日々

このインターンシップは二十年以上前から、少數ながら実施されていましたが、この数年にわざに活発化。当所でも毎年（春夏）各二人ほどの受入人数だったものが、今夏（気に十九人）という受入となり、まさに「想定の範囲外」（右下グラフ参照）。受入部門を探すことも困難を極め、最後の受入部門が決定したのは、TQC大

このインターンシップは二十年以上前から、少數ながら実施されていましたが、この数年にわざに活発化。当所でも毎年（春夏）各二人ほどの受入人数だったものが、今夏（気に十九人）という受入となり、まさに「想定の範囲外」（右下グラフ参照）。受入部門を探すことも困難を極め、最後の受入部門が決定したのは、TQC大

ここで、記事を一覧の皆さまの部署で、インターンシップ受入の余地がないか、ぜひ検討していただくようお願いします。この夏は、経験のある部署に、本来の受入限度を超えた人数をお願いするなど、無理をして頂かざるを得ませんでした。

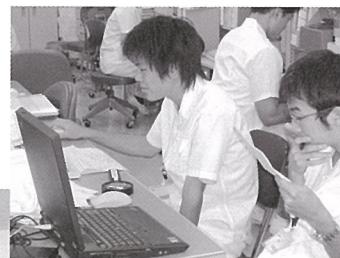
このエピソードからもわかるように、インターンシップは、優良な新卒人材獲得に貢献しています。次年できるだけ適正人員で実施することで、学生・インストラク

ターの双方に高い満足度をもたらすはずです。受入側としても、若手の指導力アップ・外部者が入ってくることの刺激等の効用が考えられます。既に、来春の応募が届き初めており、中には九州外の大学もあります。大学と連携の上、より良い

学生の選定にも力を尽くしますので、研究・製造・信頼性保証の各部門においては、受入プログラムの開拓をご検討いただ

◆新たな受入部署を切実に希望

（文責 人事課 坂口造）



### 《参加学生内訳》

熊本大学・工(7名) 熊本大学・理(4名)  
熊本県立大・生活環境(2名)  
熊本保健科学大(3名)  
崇城大・工(2名) 九州工業大(1名)

### 《実習プログラム》

理化学試験等  
G棟用水設備フローシート作成等  
各品質管理試験の見学、実習  
マウス脾臓細胞におけるサイトカイン産生の検出  
臨床開発の概要講義、統計学・演習等  
機器バリデーション、検査実習、充填・凍乾見学

### 《受入部署／受入人数》

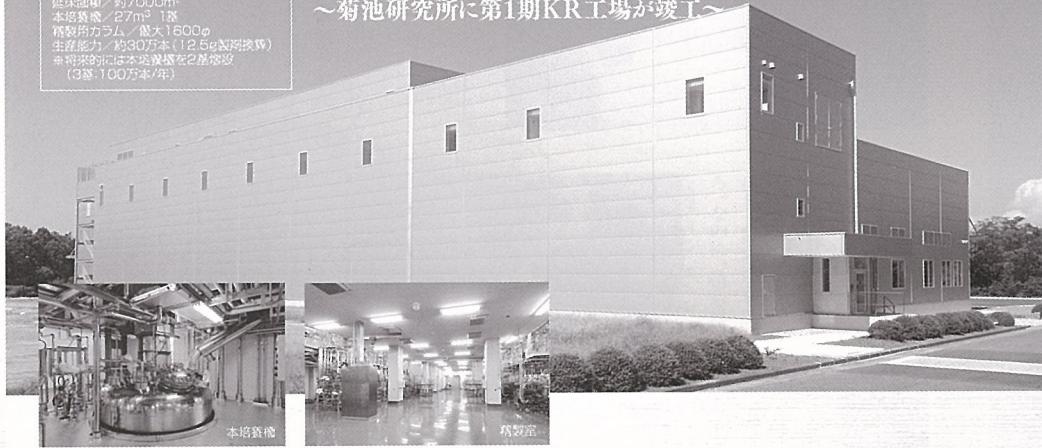
品質管理部品質検査第1課(5名×1週) 生産技術部(4名×2週)  
品質管理部品質検査第3課(4名×1週)  
第一研究部第二研究室(2名×1週)  
医薬開発部(2名×1週)  
第三製造部第三課(1名×1週)  
蛋白製剤研究部第三課(1名×2週)  
蛋白製剤研究部第三課

## 新設備紹介

# この工場、この技術にさらに磨きをかけて 世の中のために貢献する

**第1期KR工場の概要**  
 焼造・鋸骨造り 地上3階 地下1階  
 延床面積 約7000m<sup>2</sup>  
 本格敷設 27m<sup>3</sup> 1基  
 残勢用カラム／最大1600φ  
 生産能力／約30万本(12.5g製剤換算)  
 申請済みには本追加棟を2層増設  
 (3層・100万本/年)

～菊池研究所に第1期KR工場が竣工～



本日はお忙しい中、  
たくさん参列いた  
だきました。アーリ  
ブミニンは作られて  
いますが限りがあります。何とかこれを遺  
伝子組換え技術で開発出来ないかという  
のが念願の一つでした。組換えアルブミンは  
世界で基本的には3社、日本には2社とい  
う限られた施設です。KR工場でこれまで  
のあらゆる経験と実績を出しながら、これ  
にチャレンジして世界に持って行けるものに  
したいと思います。当初思ったよりもかなり  
か厳しいものですが、この工場において10年、  
20年、30年後、もっと将来に向かって誇りえ  
る技術力を立ち上げることが私共にとって一  
段飛躍するきっかけになると思っていました。  
本日、竣工いたしましたこの工場、この技術

## 船津所長の挨拶



「本日はお忙しい中、  
たくさん参列いた  
だきました。アーリ  
ブミニンは作られて  
いますが限りがあります。何とかこれを遺  
伝子組換え技術で開発出来ないかという  
のが念願の一つでした。組換えアルブミンは  
世界で基本的には3社、日本には2社とい  
う限られた施設です。KR工場でこれまで  
のあらゆる経験と実績を出しながら、これ  
にチャレンジして世界に持って行けるものに  
したいと思います。当初思ったよりもかなり  
か厳しいものですが、この工場において10年、  
20年、30年後、もっと将来に向かって誇りえ  
る技術力を立ち上げることが私共にとって一  
段飛躍するきっかけになると思っていました。  
本日、竣工いたしましたこの工場、この技術

去る10月7日に第1期KR工場(組換え  
アルブミン工場)の竣工式が挙行されまし  
た。

化血研関係者並びに熊本県、菊池市、Z  
LBペーリング、石川島播磨重工業、戸田建  
設など50名余りの参加者のもと、竣工式の  
神事を無事執り行いました。

ここに、KR工場建設にご協力を頂いた  
関係者の皆様へ深く御礼を申し上げます。

現在、2006年度からPh III治験薬  
製造開始に向けて工場立上げ、バリデーシ  
ョンを行なうてあります。今後とも皆様のご  
協力を宜しくお願い申し上げます。

## 熊本県健康福祉部 横山次長の祝辞



「本日ここに組  
換えアルブミンの  
工場の竣工式を  
迎えられ貴財団  
にさらばれました。  
がとうございました。」

## 第一歩を踏み出された事、心よりお喜び申 上げます。わが国における血液製剤の自 給状況を見てみると、今尚外国に依存す いています。特にアルブミンに関しては その半分を海外からの輸入に依存している という非常に厳しい状況です。このような 中で本工場の竣工は國の方針であるアル ブミン製剤の国内自給率アップに貢献するも のです。また、本工場は製造管理、品質管 理においても米国FDAのcGMP 対応の最先端の工場であり、遺伝子組換え 技術を使い、安全なアルブミン製剤を高効 率・高生産で製造出来る所と聞いています。 本工場で製造されるアルブミン製剤は今後 21世紀における血液製剤の新たな道を切 り開くと大きな期待を寄せてています。今後 ともバイオテクノロジー技術につきましてさ らにその研究開発を推進され、より安全性、 有効性の高い医薬品を世に送りだしていただきたいと思います。最後になりましたが、 貴財團の益々の発展をお祈り致します。」

文責・試作研究部 宮津課長／伊津野

1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005

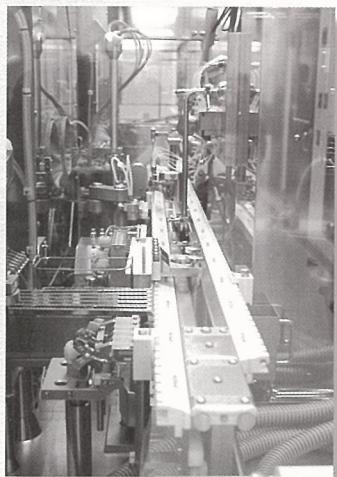
## 新設備紹介

# 独創的生産ライン ～NR棟竣工～

11月15日(火)に関係者約60名が  
集まりNR棟(新製剤棟)の竣工式  
が執り行われました。



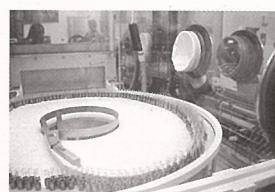
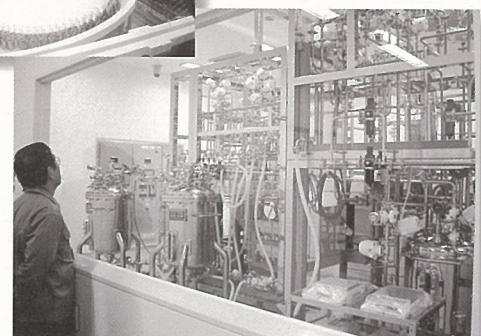
NR棟玄関



アイソレーター内充填ライン

竣工	2005年10月31日
建築面積	1,048.07 m <sup>2</sup>
延床面積	5,097.83 m <sup>2</sup>
高さ	32m
5階建(1F/更衣室及び倉庫、2F/ 充填設備、3F/バルク設備、4F/ 検査設備、5F/多目的スペース及び倉庫)	

文責 製剤部製剤第一課 平井課長

アイソレーター内  
タブレット

3Fバルク調整設備

NR棟は、チメロサール等の抗菌性のある保存剤を含まないワクチンのプレフィルドシリンジの製剤棟です。最新の技術と設備で、安全性・有効性・利便性に優れたワクチンを供給します。

- 高速充填による生産量アップ
- クローズド化、アイソレーター導入による高度な無菌性の確保
- 独創的生産ライン
- 針付きシリンジによる接種時の利便性向上

所内報 「いじがきで綴る、この**10**年」  
The History of ISHIGAKI

●発行日／平成18年2月1日●

●発行／化学及血清療法研究所●

〒860-8568 熊本市大窪一丁目6番1号 TEL:(096)344-1211 FAX:(096)345-1345



財團  
法人  
**化学及血清療法研究所**